尾張名所圖會

前編

ル 4
4597
4

早稲田大学図書館
昭和35.1.28 購入
藏書

早稲田大学図書館
門 乾
號 4597
卷 4

尾張名所圖會卷之四

目録 愛智郡

劔神社
藏福寺
海國寺
松姫神社
上知我麻神社
同初市の図
俳諧師桐葉が故宅
布曝女町
乾徳寺
正覚寺
喜見寺
傳馬町驛舍
魔樋合
松風里古覽
裁断橋
石地藏尊
松風里
鈴御前社
火高地古道
久々利が妻大力舟を引上る図
織田越中守母
姥堂
政林寺
大師井
呼續濵古覽
浮嶋が原
加藤圖書傳
寂覚里
加藤全朔傳
實相院
東御殿
濵常夜燈
神戸町
間遠渡
魚市問屋
年魚市潟
塾田元服の式
海藻
築地樓上の図
聖徳寺
義教公行殿趾

本遠寺　白衣神社　總持院　常滑君屋敷跡
興德寺　三狐神社　扇の橋　景清祠
圓福寺　西福寺　織田信孝出生地　天祥菴
地藏院　大法寺　瀧の坊　夢違觀音
池殿屋敷　誓願寺　賴朝公誕生地　福重寺
政所　白鳥　法持寺　龍珠寺
南溟和尚の古事　清の茶屋　金毘羅宮　下知我麻神社
宮團扇　土器　如法院　藤團子
機綾里　同元三松飾　義經元服地　鷲峯山
同汐干眺望の図　將軍塚　六地藏堂　宮谷觀音
夜寒里　同古覽　高藏宮　玉井里
澤觀音　住吉社　金山社　古城址
佐屋街道標石

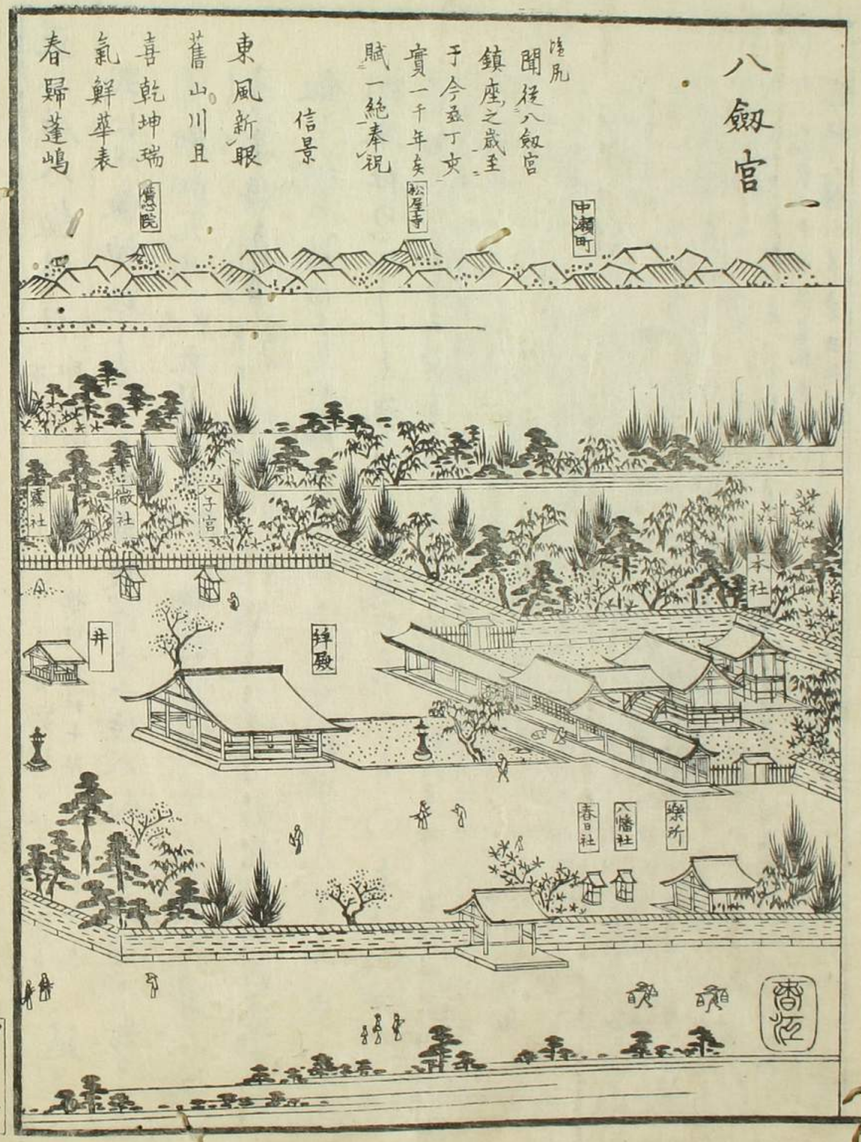
正一位八劔神社　本社の南三丁にあり〻日割御子社の西にあり　延喜式に八劔神社〻〻〻〻本國帳に正一位八劔大名神〻〻〻〻守安倍朝臣　貫名と脫せり　紀ゆハ岩奈磨〻〻〻〻日本　を　勅使〻〻〻〻新造の宝劔と納め給ひ〻〻八劔宮〻〻稱〻〻〻〻

八劔宮

注凡
聞從八劔宮
鎮座之歳至
于今癸丁丈
實一千年矣
賦一絶奉祝

信景

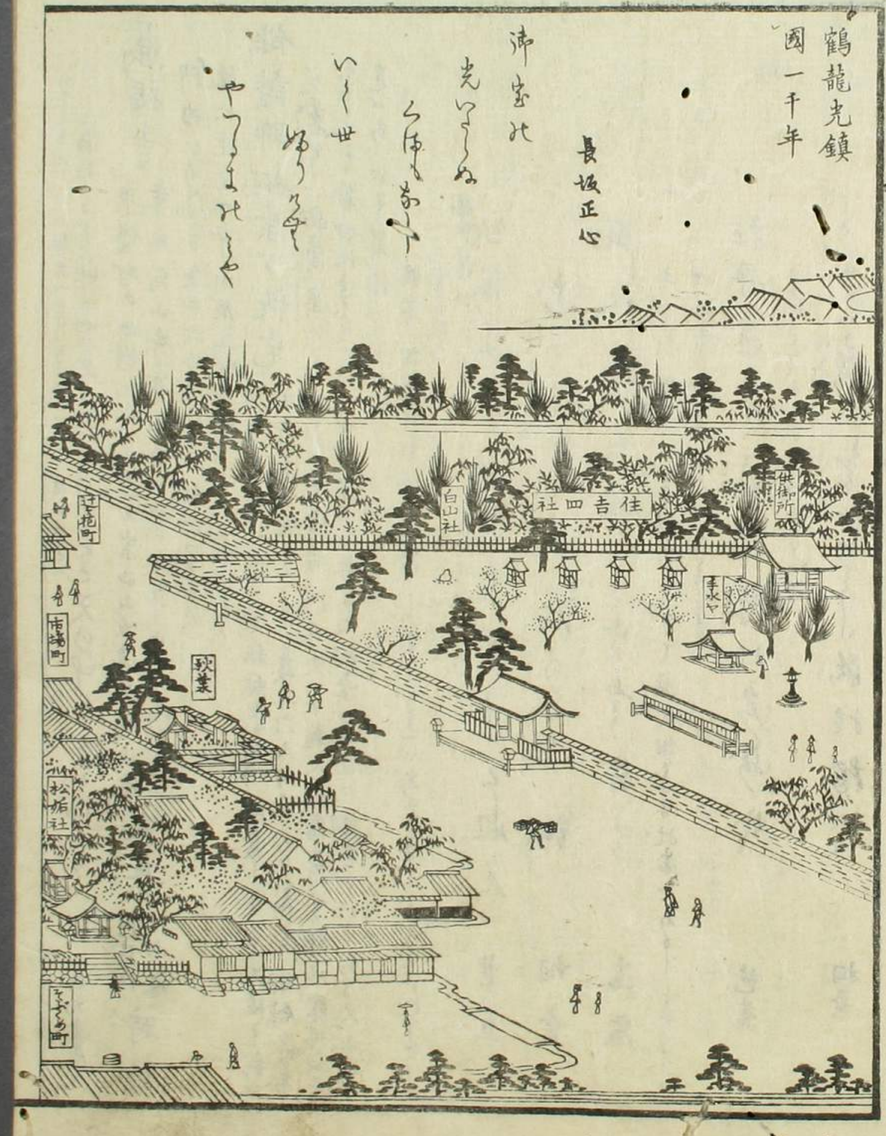
東風新眼
舊山川且
喜乾坤瑞氣
鮮華表
春歸蓬嶋



鶴龍光鎮
國一千年

長坂正心

沸宗北
光いろ〳〵ぬ
くゆ〳〵ぬ
い〳〵世
ゆ〳〵ぬ
やつてきたれこそ



八幡宮へ詣でる道に西すこし傾おもむき
宮めぐりの道記
宮めぐりの道記 天の川 雲立そめぬる 烏丸光廣卿

藏福寺

市場町の西側にあり浄土宗西山流傳馬町正覚寺末開山秀賢和尚ハ菱屋年中の人なり

本尊 阿弥陀の木像

門内にあり 至夜二六の時陸一紙に書く

時鐘

俗に延宝四年丙辰立秋日撞しるす

俳諧師 桐葉の故宅

同町東側にあり俗称林七左衛門 相葉と号し 後に芭蕉門人なり 俗名ハ陸奥の国の人 杜国 荷兮 野水 露川 知足

元禄年中 芭蕉 幽蘭集に見えたり 桐葉同門の丈年越人杜国荷兮野水露川知足

ゆゑに名世に出えれば 見ばやに 墨傳を記す

桐葉 相葉の句碑

熱田三天社

此海よ 笠 鞋 脱ん 笠しれ 芭蕉

むくも 俺しき 波のくら 蜻 相葉

風に 乗 風 蜻 ゆ 蜻 行く 去 茂

杜丹 桑 て 這 ゆる 嫁 れ 多 ぬ 丸 芭蕉

相葉

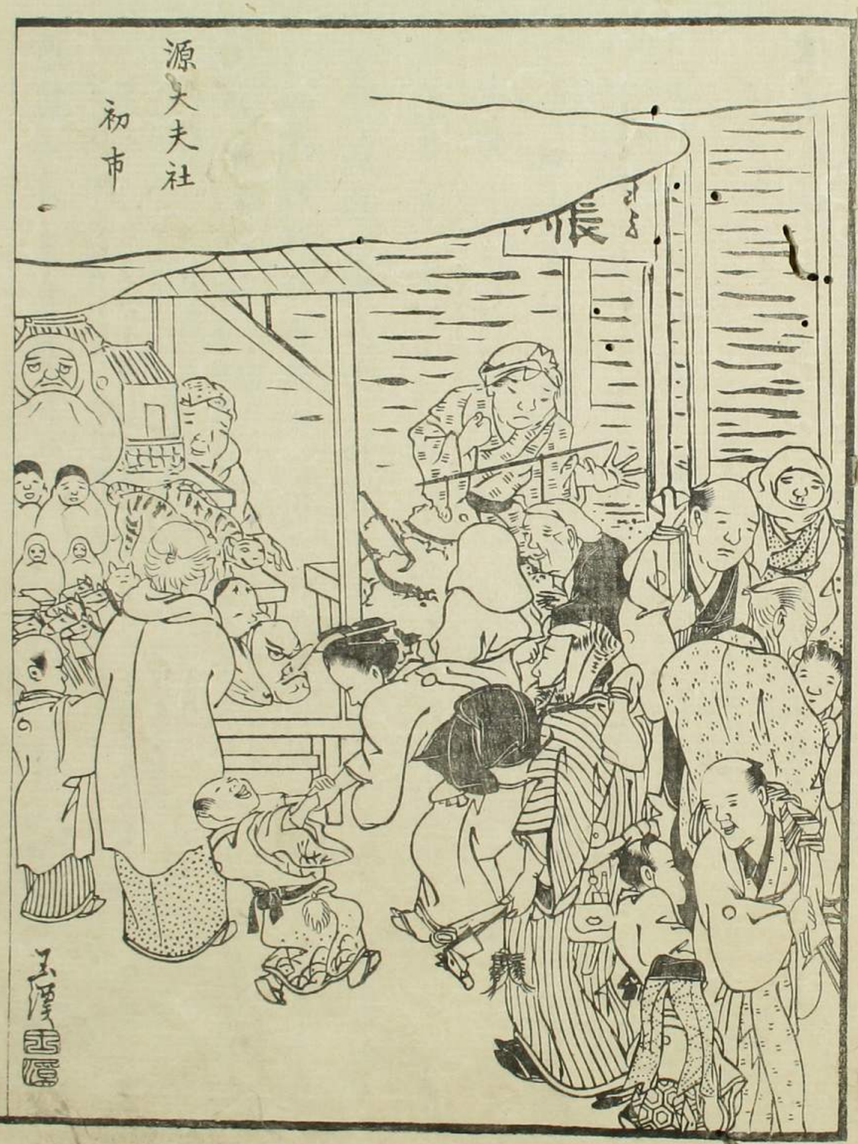
布曝女町

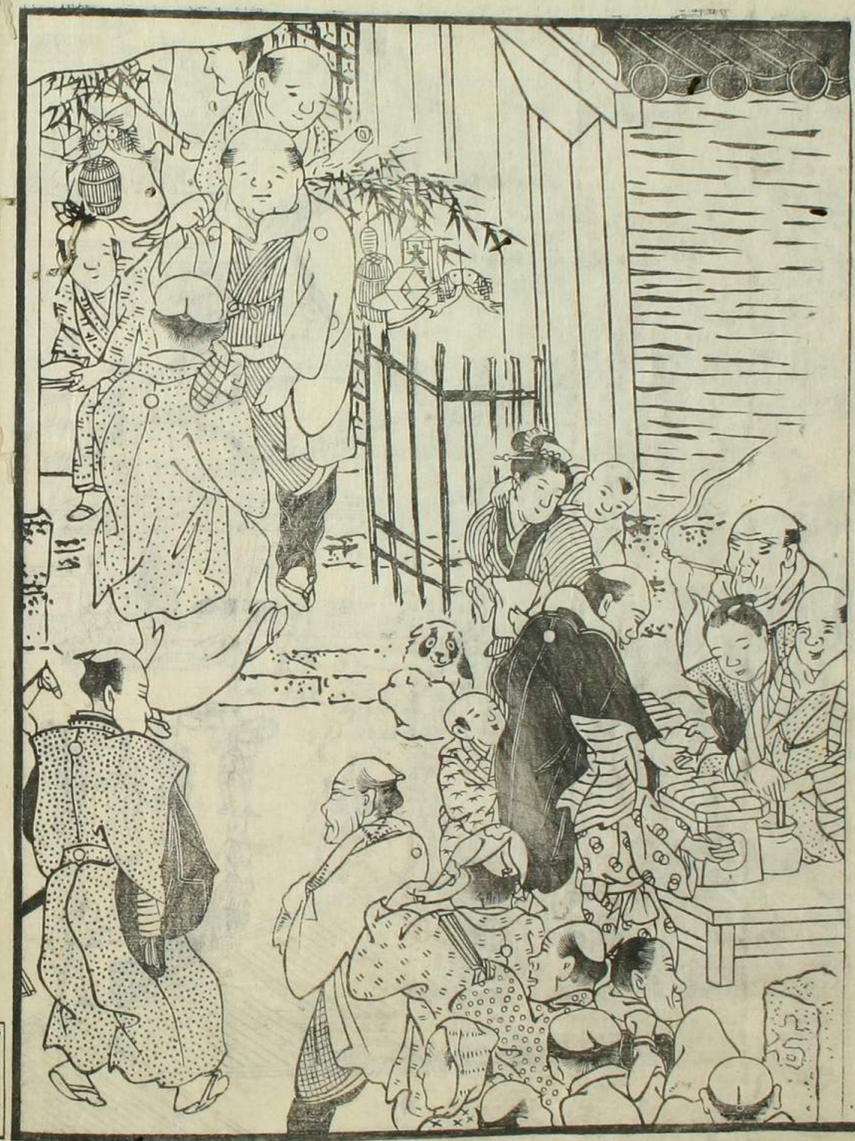
市場町の南の方八幡宮の南にあり 今号福女町 日本武尊 に到る

時川の 也に ふ ひ き 一女子 布曝 て 在 る と ん 浴 ひ 其名

と 問 浴 へ ば 宮 簀 媛 る ま ま ま

源大夫社


源大夫社
初市
帳



雲龍山喜見寺春養院 同町にあり真言宗高野末院末弘法二年加茂集人入道全朝建立して雄大僧都堯瑜を開山とす寛文七年伽藍六院ありて堂宇甍を並べ坊舎も廣大なりしが衰廢破壞に及びしを旧地のみのこりて今春養院一宇存在す 本尊 十一面観音 脇仏に弘法大沙の他に王子 大師の井 境内に

上知我麻神社 市場町通傳馬町の西にあり俗に源大夫社又智惠の文殊とも云ふ 熱田坊社七所の一社なり 延喜式に上知我麻神社本國帳に正二位上知我麻名神と称する是なり

千我麻の郷名なり和名抄に愛智郡千竈と見えたり

の事なり或ハ今は星崎村のものなりしが性あるべきなれば

此神のことに詳なるを以て考ずして千竈とせるなり

熱神 小豊命ハ尾張氏の遠祖にして當國の國造なり舊事紀の國造本紀に尾張國造志賀高穴穂朝以天別天火明命十世孫小止与命定賜國造と云へり ○末社 海神祠 大黒天祠 境内にあり毎年正月五日の初市に惠比須大黒の摺絵を売り又当福餅掛鮒等を惣とす 延喜兵部省式に尾張國傳馬驛馬の負と記すと云へども熱田ハ

傳馬町驛舎

契田妹泊の事なり むかしハ古街道に二筋あり今道の如く地蔵院の古墳文に見え永禄の比人家立つき町を成る東海道五十三次の一駅なりて整象他に倍さまして

和多道中記

雜記 汲といふ人契田にある宮のうちやはさやの入口 近住

石地蔵尊 傳馬町中程にあり辻地蔵と云ふ像三河國重名村にありて地中に埋み不足して片方たりしが氏石仏とひろい片方に擬ひ彼に来りて地蔵と賣り石仏と称する者の芦名に捨て埋て埋みて其木の古さを見るべしみて其木の古さを見るべしみて其木の古さを見るべしみ

鈴御前

大宮司季雄

清稜川

政林寺

精進川

鈴御前

過正覚寺

滄洲

買山集

偶出紅塵陌經過祇
樹林風光院落靜雲
物松杉深不作攢眉
態地生禮足心琅々
雷鼓響更為盪胸襟

猛彦

書院

玄關

庫理

本堂

亀足井

鎮守

井

阿弥陀堂

蘭渓機跡

真乗院

松風里

正覚寺

前夜の約を流話せ[illegible]に城大夫ハ前夜見し老翁にハあらで
全余人なり且其約をなしるるなり其上寄附せんといひ
地も亦城大夫が有ハいわゆる地主ハ他人なるゆ差へる城大夫
つゝなりひるハ大神我に託してゆゝしくけ
もゝ彼地主が許に行けり と語て今せるよ地主もはゝ
大神の神恵なるをさとりて終に其地を融傳に授るゝぞ
夫より堂宇を造立て住職となり永享九年四月十一日寂す
融傳或時祐福寺より奥田に活んとて唱海山を越しに忽狼一疋あり大きなる口と
聞き融傳ゝむひてたゝうゝ足くゝ咽喉にあのつくて悩うゝもあるを狼の口に
手をさし彼あを反あるに果て矮角の骨なり[illegible]ゝ狼ハ[illegible]
杖と以て地を穿ちるゝハ忽清泉湧お渇を潤しるゝぞ又或日こゝ山中にて渇しるゝ[illegible]錫
唱法山中にあて融傳泉と称する是なり融傳の道徳恵ひやる

本尊 弥陀立像恵心作 仏性寺 弘安百

大膳亮藤原之の持念佛服壇に十一面観音地蔵尊を安置す

鎮守 水上神社

亀足井 本堂の側にあり南山融傳熱田の神勅にゝて此所とな

足を山号の起なるゝて其由井あり

寺寶 恵心ハ甚多ゝしゝ累年の回録にゝて今ハ[illegible]るもの十ゝ一あり。大幅の浄土

曼陀羅ハ甚古幅ゝて実に千有余年の古と天平宝字七年の文字全備ゝゝけゝゝ

消のゝゝて[illegible]ゝ。日蓮宗連署状及び 東照宮朱章ゝゝ宗論記等ハあるゝ

十三世の伝法沢遺ゝ玄義国常楽院日経ゝ浄土日蓮ゝ宗勝劣と論ゝるゝ終に
慶長十三年 神君ハ御前において法侯方列座沢遠日経宗論ゝ法
けゝ其怠状と為おせゝし又法に仰せきゝゝし日経ゝ袈裟衣ゝて今に此寺に蔵す
今板行ゝて流布する浄土日蓮宗論記ゝゝるものゝ[illegible]の家法のゝ[illegible]
その外古書古画ゝ多ゝ又 後花園天皇後陽成天皇ゝの
宸翰及び 國君ハ御真筆ゝ多ゝ蔵せり

塔頭 ゝゝ五院ゝゝしゝ退廃して今

真乗院 恵眼寺 ゝゝ

松風里

夫木抄を初藤原清輔松葉集ゝに松風の里と尾張の名所ゝ此地走ゝ絶ゝ厚覧帥に
松風の里西ゝ寺ハ[illegible]ゝ足ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
唱海ゝゝ[illegible]ゝ唱法の里老ハゝゝ生ゝ[illegible]

松風里尾張

夫木

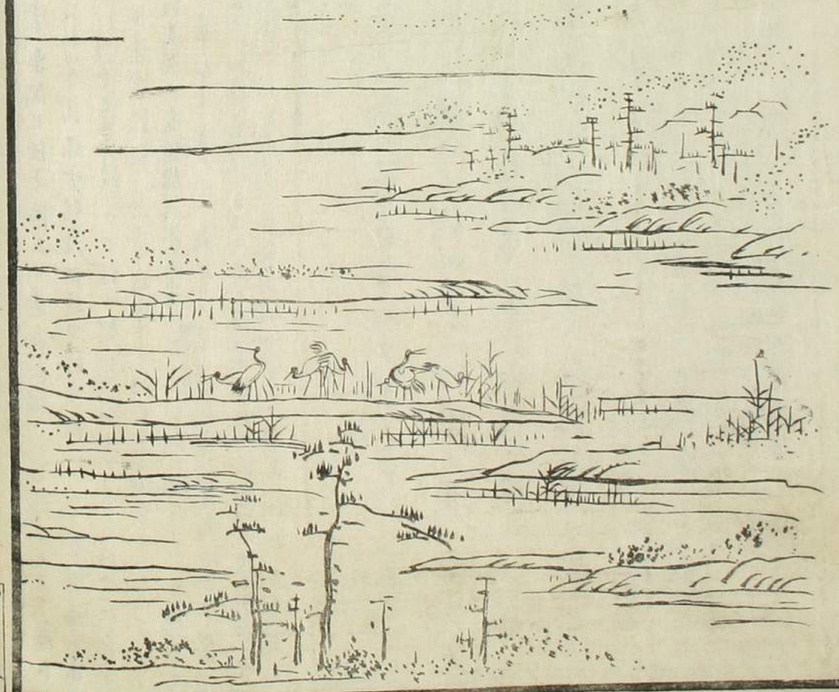
松風ハ里にもとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

松風里

古覽

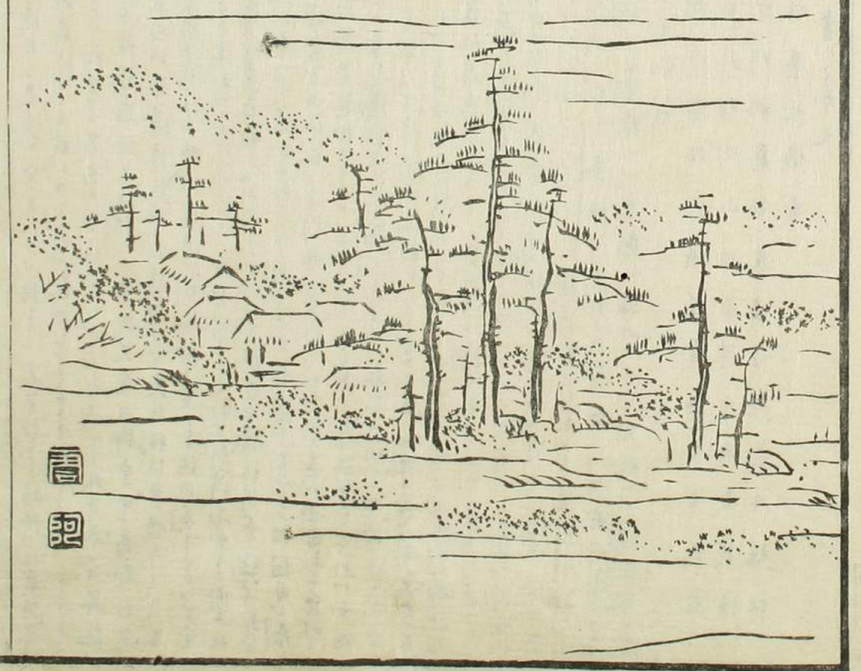
泰翁

咫尺松林下
海潮呑岸生
長風時颯〻
無聽不清聲



白鷗

松籟傳琴韻
雨寒乱鶴聲
晨昏聽不絶
認得古鄉名



裁断橋

往馬町の東精進川に沒せるを今さんざ橋と呼ぶ此所に裁断橋
ありて沒勢と称ひしが高名くまなく武蔵さうの橋の時てんざうろうもあり
ひ精進川ハ彼夏越の後まもなく起るなり起るの名あり
及び舊本の今昔物語にのせる尾張宿祢久玖利　聖武天皇の御宇中島郡の太
領なり其妻ハ愛智郡片絶里の出生道場法師の孫なるが夫に従ひ柔順にして又
女工に精くまた織を織るにあつにきせけ時に國司若樣部某を結の英しきと見て
太仮にあをーをくて返さずまた妻おつにねひを衣を惜しおもひ除ふやに向に
久玖利を召くくまをられバ百人さんとらひて國司が旅に出て浴衣と
かへられしこふ百日怒りて下人に命じ近おさんとすれば女動かずしてハ國司が居
ハ床とあまにちらきし上て國司をのせあづ門外へ出むて色ひるまバ百日おち怒れて
きぬをへしつ和太仮が父母國司に怒を怒むるとを妻を離別さるれバ女旧
里に帰りて武内女神津川みて衣と洗ひ居に高人ども大和にあつて漕ゆくて
此女と共に嘲哢すると女黙ているるうあるり炊ひるまバ我と犯さんとせバ
おんしらふ商人いりて女とくんくすと女和にしつつき水ら上へ半町ばかり引揚げぬ
和さんさうくいらられ人と雇ひ名あるとあるこの日去らんとすを
内女礼あきが為にかくしるとを行為に雇ひを助ると嘆ひ怒を見ひるあが女心や
一町ばかり引わげくを出ばバ和中の人ども驚て嘆嗟ひ怒を見ひるあが女心や
つぎゆるして舟を押寄ひ水にうかべてがらを女が力と試んとて此和と五百人にて押さ
めはに絶にどうぶ引ひるうきて草津川にあるバ傍都川三途川あじの音
例多津川ハ通へハ三國を分ち分ち其銘に曰
文武假名天皇の後を勝分ち其銘に曰　又棚干の擬宝珠を漢
熱田宮裁談橋右擅那意趣者堀尾金助公去天正
十八年六月十八日於相州小田原陣中逝去其法
名号遠岩世俊禅定門也慈母哀憐餘修造此橋以
充世三年忌音同供養之儀矣

焼堂

裁断橋の西詰南例にあり時宗亀井山園福寺の末流なり堂中安阿弥作れ
比幸順僧都と云ふ門此川を歩行渡りしに此時を知らず
剥取りに老婆祈ろく命絶ち怒心浅き老婆あるバ霊魂ありを
為三途川の妖怪像と女を殺すとも又
きまひりるに縁起を撰ひ聚障消滅の

織田越中守母

天文の比奥田の商家に一人の娘ありて尾張中一の美人なり
を名かるとなりしハ古後の城主織田伯後守信秀後少て主女
を乞ひ是なが父母武士奉公と強い意ぜざりしを信秀怒く多人数を引き率
むすめと奪取城中に連て居室あり信長公は少年越中守と
伯後守卒去の後女子共に奥田に居して有りに母ハ再び初多郡山川の水野下野守
信元に嫁せりて又女子三人ありて所謂孝陽の水野忠政の室阿和の水野孫八郎
の室大善寺の室なり越中守奉嘗進し裏銘に彫る長剣一振あり
文禄参年申七月七日織田越中守奉嘗進し裏銘に彫る長剣一振あり
共に奥田に居住ありしより豊饒の高人
て氏伝馬町ハむしより豊饒の高人
多き所あるバ右ばくに右ますのく

火高地古道

裁断橋ハ赤築出所に
多井ばくまもとり人

てん文〜十八年二月十八日にわたり
まとたくまとより又ちとも見ぬ
の中ハらるいもあり
よの又のちまでけきつけを見る人
ちかくまとして彫ハ百年此人になり
比幸順僧都と云ふ門此川を歩行
剥取りに老婆祈ろく命絶ち怒心
為三途川の妖怪像と女を殺すとも
きまひりるに縁起を撰ひ聚障消滅の

織田越中守母

天文の比奥田の商家に一人の娘ありて尾張中一の美人なり
を乞ひ是なが父母武士奉公と強い意ぜざりしを信秀怒く多人数を引き率
むすめと奪取城中に連て居室あり信長公は少年越中守と
伯後守卒去の後女子共に奥田に居して有りに母ハ再び初多郡山川の水野下野守
信元に嫁せりて又女子三人ありて所謂孝陽の水野忠政の室阿和の水野孫八郎
の室大善寺の室なり越中守奉嘗進し裏銘に彫る長剣一振あり
文禄参年申七月七日織田越中守奉嘗進し裏銘に彫る長剣一振あり
共に奥田に居住ありしより豊饒の高人
て氏伝馬町ハむしより豊饒の高人
多き所あるバ右ばくに右ますのく

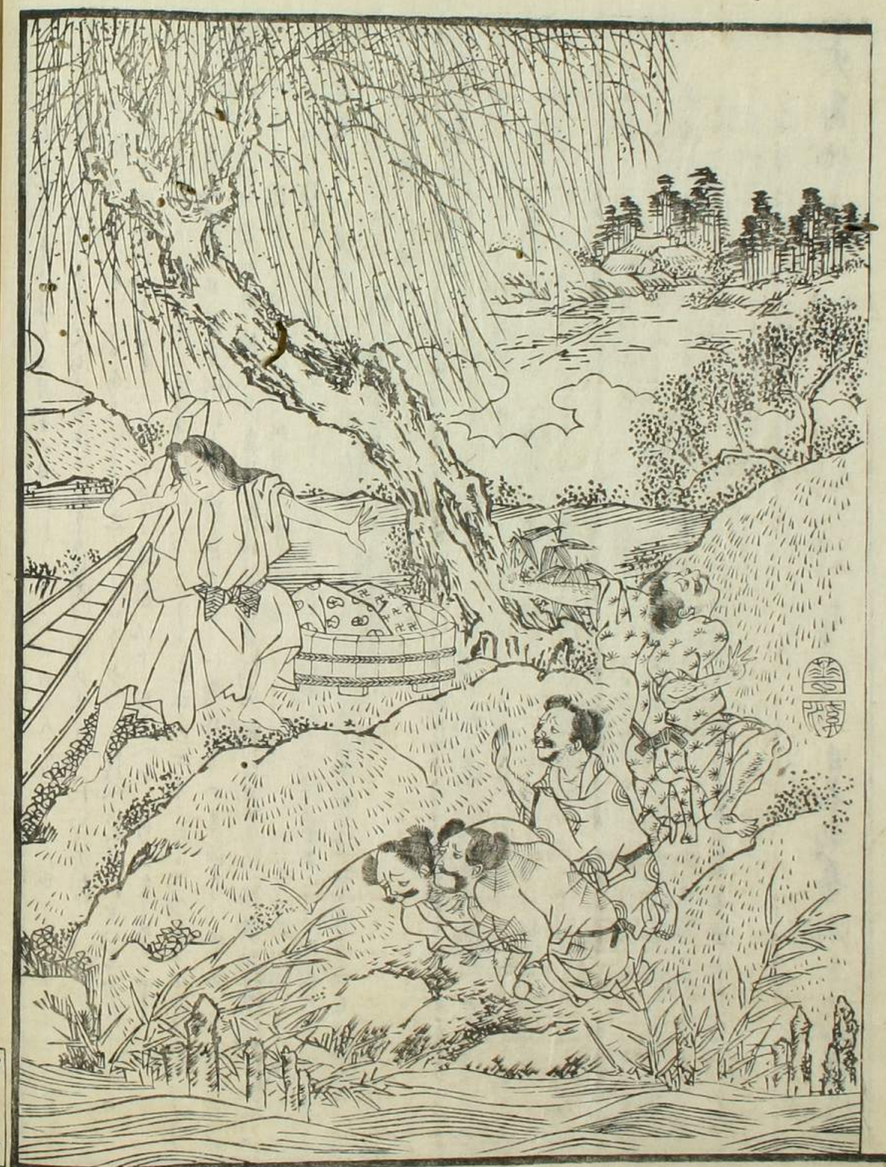
火高地古道

裁断橋ハ赤築出所に
多井ばくまもとり人

むし

日本武尊氷上の宮賛媛

久玖利が妻は大力
舟を引上る図



命の泝へ通じ往ひし古道此跡にて町家二三軒ばかりにけて今に家と造らずして家作して住居するものなしバ息神罰の祟りありとぞ寛平縁起の　日本武尊の御歌に　奈留美良手美也禮波止保志比多加知尓己乃由不志保尓和

多良部年加毛しよみ給ひし古道あり

呼續濵　日本武尊氷上へ入給ひし後ハ海潮小ハ波るむしハ此ところ　尊此濵の名付給ひ　尊此濵の名付給ひ

山海望寺のうらまで入海あり　尊此濵の名付給ひ

墾ヶ浦　今の世に陸地とハなれども　尊此濵の名付給ひ

又方角抄によれば此濵の後に海土れ家居ありて後世に

凡そ[illegible]の道あるべしとの事なり

新後拾遺　[illegible]の中に後の濵よりの

[illegible]　表阿上人

尾張八景　[illegible]

[illegible]　佐野紹益

[illegible]　法下金幢

[illegible]　加藤磯足

八十浦之玉　鈴木朗

凡そ世の流れ[illegible]里ばかりにあるけれ[illegible]の後の濵

周岳山政林寺　築出町にあり海潮宗布曝女町海國寺末元亀元年加藤図書助入道順正の創建なり開山僧仁峯ハ其一族なり

本尊　正観音の木像なり

大師井　日所の東にあり弘仁年中弘法大師此地に九井を穿ち其一なり此外所々に[illegible]

浮島ヶ原　裁断堤の一町ばかり東に一堆の冢山あり老松四五株あり[illegible]

洪水高潮出れば水災に此地の人苦を[illegible]社あり天鈿女命を祭る往古より今ハ廢社なり

しかも[illegible]

[illegible]

[illegible]

姥堂裁断橋呼續濱舊蹟

よびつぎの名こん

呼續濱古覽

一

冷泉為村卿

新候題林

なにはえ
ふるさとの
よびつぎは
波ばかりして
寄るかすも
なし

土御門泰邦卿

東行話說

松の風や

ふるさむの里よ
なびきてすむ
つるはふるさを
よびつぎの
濱

鳴海潟

栄葉和歌集　　奥田加茂図書う許にあるを下るに日を立てて

浦山〜かくらね浪はむ〜まして見るめにうゝ海〜の岩　大納言光栄卿

加藤隼人延隆入道全朔　西加茂と称して富裕あるしが福島正則清須城せし時も高に出でゝ仕へ給ひて後世を慕ひ給ひ出家して子孫当所に居住せり紹巴が富士見道記に奥田に入て尋ねハ加茂全朔殿ハ下りけると延引してその舎にて交〜むひのひ見ハあり　あるひハ今ハ思〜宇佐の山〜まつ〜その外こゝ所の古記ども此家の子孫多〜見そなはし給ひ加茂氏と称し又全朔の子隼人景隆男子多〜あるて隼人景延傳蔵当所にあるて当所に居住すまべて加茂氏数家ハ系図中〜景好彦宗景盛氏が末孫今にあり　東照大神君より給りし所領中　掃部と称さんるゝと称さんるゝ　清朱印おとゝ〜に暑記す　由緒

實相院　中道町にあり高野山真言宗村万徳寺末永禄十二年加茂図書助順政の建立なり　本尊　不動明王服壇に如意輪観音と安置せり此寺ハ延享四年八月

東御殿　渡の多居の西にあり清華殿も移すこゝ此所海禅院の寺地なり海禅院と称し槽海岸にのぞみて　慶長年間に殿宇を造営せり〜〜

城郭のめ〜数を多〜

寂覚里　藻塩草に尾張或ハ美濃しるとて東御殿の内を舊地なりとて此の方に大樹の老木あり〜〜ひて今も祭りの檀〜称する者ありとおもふ

古今六帖　夫ふ

吉野の滝見の里ハ秋ハ来き歌ひ〜ひ〜ま我を　躬恒

風の音にあるゝ〜れて吾妹子ゝ滝見の里に寂しうあり　伊勢太輔

千首和歌

行〜末すゝ滝見の里ハ梅ゝに咲き来ぬる月のひをなの　為尹卿

新後撰集

此里ハ秋きめにまゝ〜波ゝ〜ひて行り〜ゝ〜ゝ滝見のまめ〜ゝ郷　法皇御製

富士見道記

里〜ゝ山を秋見のまめ〜ゝ郷　紹巴

神戸町　和名抄に紫香郡神戸郷畠三町四反云々とあり古き奥田ハ神戸なり　目録に高戸郷畠三町四反云々とあり

東海道沿一の襟領にて前ハ蒼海ハ漫〜るにのぞみ朝熊嶽波涛の末に行〜ゝ西の方出雲ハ松ハ〜〜ゝ〜〜ゝ〜〜ゝ

熱田濤

濤注等に尾張より伊勢へ渡る海路の事なり真名伊勢物語に昔男在計利花落ル在佗而熱間江性計流ル妹背尾張境迦海頭乎行ル浪家白玉乎視而家裏過往方之憂敷ル浦山敷毛選ル並哉

黄葉和歌集

見やらの尾張の海ふき帆うけん伊勢へて送る船の追風　烏丸光廣卿

身延紀行

こゝもとやいつくハ知らぬ秋の海　僧元政

なのりそ

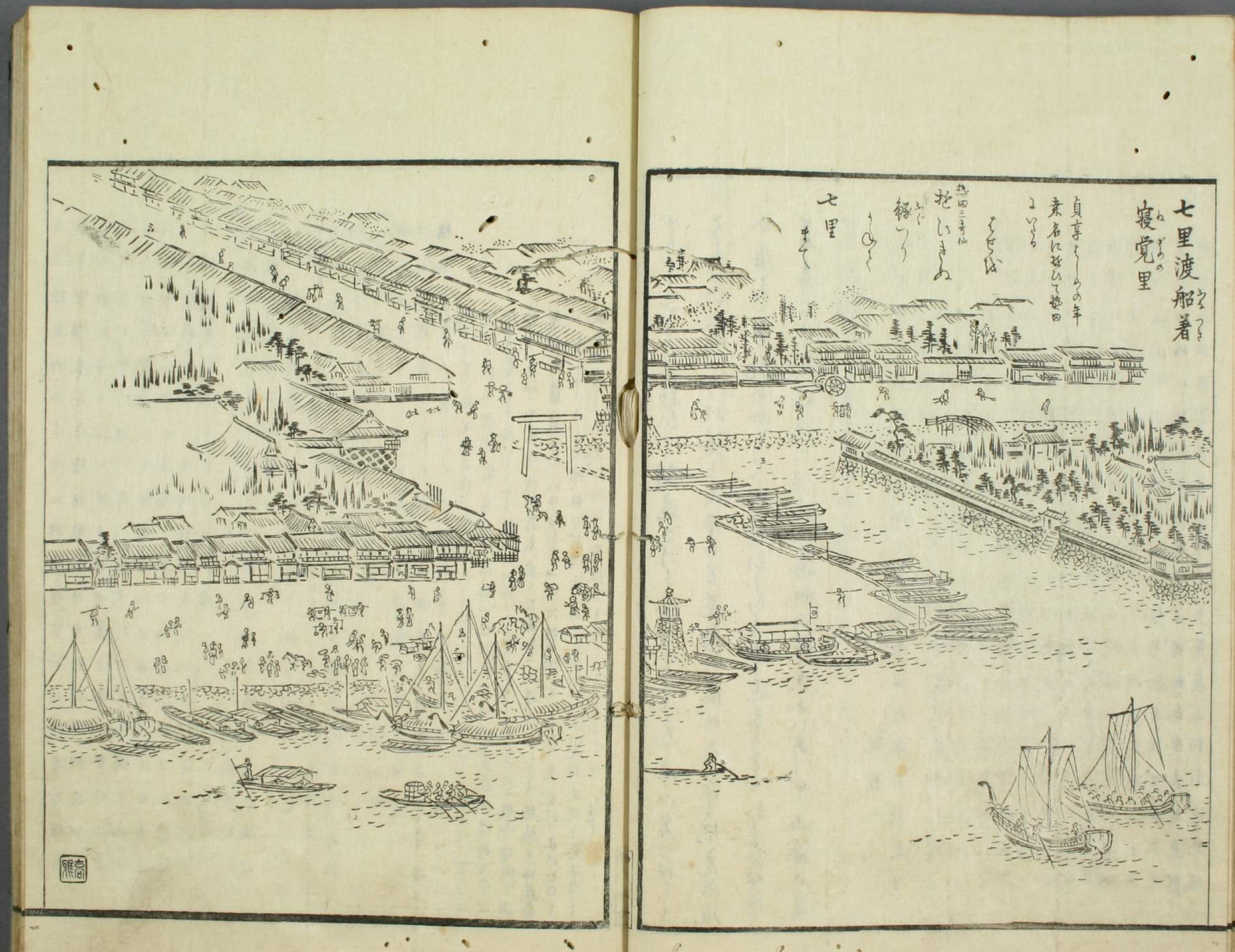
なのりそ

なのりそこ海ふかきのいるんなつのくれ水音月の入　契沖

なのりそ

なのりそ

なのりそ


七里渡船着
寝覚里
負享元年の年
素名に改めて後四
七里

七里際隣邦山遠四双眸想像當時馴機者溶溶出
没見白鷗寒月夜曙朝暾影時有輕舸漁網投舳艫
襲帆桑名岸可諏封姨与陽侯棄名既是勢州地
天武皇后曾停輪又聞　聖武行幸路廣縫不能遂
逆謀自茲望洛三十里長途漸近忘客愁有母有弟
武城下海山雲水思悠々膝下相別遠遊日記憶韓
公嘗諭歐佳境名區所経歴長公紀行欲寄由家君
安穏我無恙願畢官事大刀頭

東関記過熱田前初月寒三更西進不心安征帆遲速風消
息渡是嚴陵七里灘　澤庵和尚

挺尾州熱田迄藝陽廣嶋路行之詩　景南和尚

詞林臺行集海山萬里一襌衣晩出蓬萊路不違若是西凡有神
助扁舟早戴月明歸　僧元政

東延紀行七里渡　僧蓮

西凡七里片帆懸波上飄々著熱田邂逅相逢三五
夜超遥飛過九重天仙山縹緲宋濂句鯨海渺茫徐
福船吾孝不容携父骨徘徊月下憶僧蓮

四日七里の航風吹西風吹ありけれども
なを微風搖暗霧麗日泛浪鎛一帆如逐電短櫓若壓槐頃刻に熱田
宮を著よる飯ありけるに四神の賽すけしもあり碧殿御燈側于深
樹中春叩玉扉鎖於秋霜底寂々凡物層々樓基さながら極絶天海蓬壺
遊仙之靈窟ありけるを中にも唯故里は老士なれば思いおく楚河未央々怨らん
と却けるを中にも一心に懇祈をなして東方はるかのなのを
假名書がたりも坐に征袖の亂落とそるるまんこそ

歌風吹とかに船をさそふらんなとは此のかく日を吹きて　源通勝

あつまの道記
伊勢の海は志ほやけなりきを素名をとりかへるに七里のこゑ
舟にのりぬることをうり熱田のこゑをうけるに地にてはきをも見え
ぬ文ぬべしこゑやこゑ山もひとつにきこえをせねる風さへ俄にふきつるまに
うちそろへしぬひきあつけもちもちとられしもちもちとられぬる
ゆいて　そろつてきつんん熱田のこゑ所はいろをとをしへんやし
見いとのまもつてそろつてそろつてこゑをいてもちもちとはいろをるから
たるも山しるのこゑもちもちとはいろをるから

豊臣勝俊

あつまの曙の紀
菜名につきぬ袖のを袋うちなるはけれをかなしてやうて
うちうちぬ伊勢尾張の海のはるひの海のはるひのはるの海のはるの月はんなるに波は
ぬ〳〵自くまてのうしいきをいうちくまとい人とうちて
ちくしまとい人やはるぬ波はむしれ伊勢の海のはるの　光廣卿

あつまの道に海の夢波の枕にひきぬまとい舟中敷枕一声近知是熱田宮
裏鐘おつきぬ

寛保元年七月関東下向の時

永みちは海のうしも秋の日はあつまに来て吹風とも　為久卿
はるかの海のやうしんてのうしなるひて
はるかの海の夢々熱田の社風吹はれ松浦中安く渡らん　為章卿

醉醒若集　皆ちりみそ浦

神風はいせのゆうなぎ夕凪に　漕おにけり　建部綾足

人のゆくへにまかせてきりぎりす

伊勢の海仲はしらきいけき日ハ行てさの浦あるる君　村田春海

ちりもすて神のちりひの樊田さ　安らぎてふる百舟　敬足

東国紀行　月雪はいかさいふあるる海をこう邪　忠敬

尾張名所図会にはりうる地人〳〵波まれ海ふんて船しるふ

樊田三歌仙　海〳〵をて時は彩　ほのぐふ白　　さ代

曙ふん〳〵地戸和ひて樊田のさにまき浦〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ　ふ芭蕉のさ

も尽〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ重ふ枝ふ仆ふ埼ふをきにまふ〳〵ふ〳〵ふ　ふ芭蕉のまも

春の日　春め〳〵や人さ海〳〵　社伊勢　こ来〳〵　荷今

濱常夜燈

浜海は岸辺にありて常夜燈と称す永二年成就隼人正正房父正成の遺命に依て建立し永代の號明料として浜宴田地をもとめ今ハ氏賢勝院より ちをとはりうきどをを

熱田湊常夜燈　尾張國吾湯市郡

件燈者為使往来之船有使于夜渡也是即依于亡父瀬隼人正藤原正成遺命而正房所營建也并寄五十畝之田地於太子堂以為膏油之資矣所冀至于千萬歳無断絶矣　銘曰

北斗南針　却在第二

東行雜詠　渡頭高明燈　平岩仙桂

燭龍徹終宵破暗映海嶠瀾底焰未消凡裏影何落

更無黿鼉遊還有鯤鯨愕且喜掾客情夜船示止宿

年魚市潟

すべて尾張郡の海をとりて古今に知多の浦又氷上あるをと今をもとめるを見るバ氏ありさより東の方知多郡境は海也あるるすあらををりハ雲神抄及び夫木抄ホにあるもるを紀伊国の名所と

すをを日本書紀によりて年魚市ハ尾張国の地名あるるを明ケ

万葉　年魚市方鹽干家良志　知多乃浦ホ朝榜舟毛奥ホ依所見

比今夫木抄によりて既不知よみ人知らず

日本武尊

寛平縁起　阿由知何多比加弥阿祢古波和例許牟止止許佐留良牟也阿波例阿祢古乎

新撰古今　あゆちゝ汐干はうを見るさせハ　夫木　舟を　いのちゝ幼漕舟乃ちの〳〵し知多の浦と波ゝ居

日　宝治二年百首　浮千島　夕波のゝ見ゝ見ゝ見ハいのちゝ　日　あゆちゝ汐干にりしゆきゝ　夕主を

日　あゝのゝ人よ夕主すれゝあゝちゝきゝ　知多の浦に寄るゝ引あゝちゝ

後恵法師　中納言家子　正三位知家卿　光俊卿　平政村卿　田中道麿

築地
樓上の
遊興
つきぢ
田樂
たちの
さうみち
樂四ろ
ちゃ
多き
宮ち
渓
やき

熱田元服の式畧

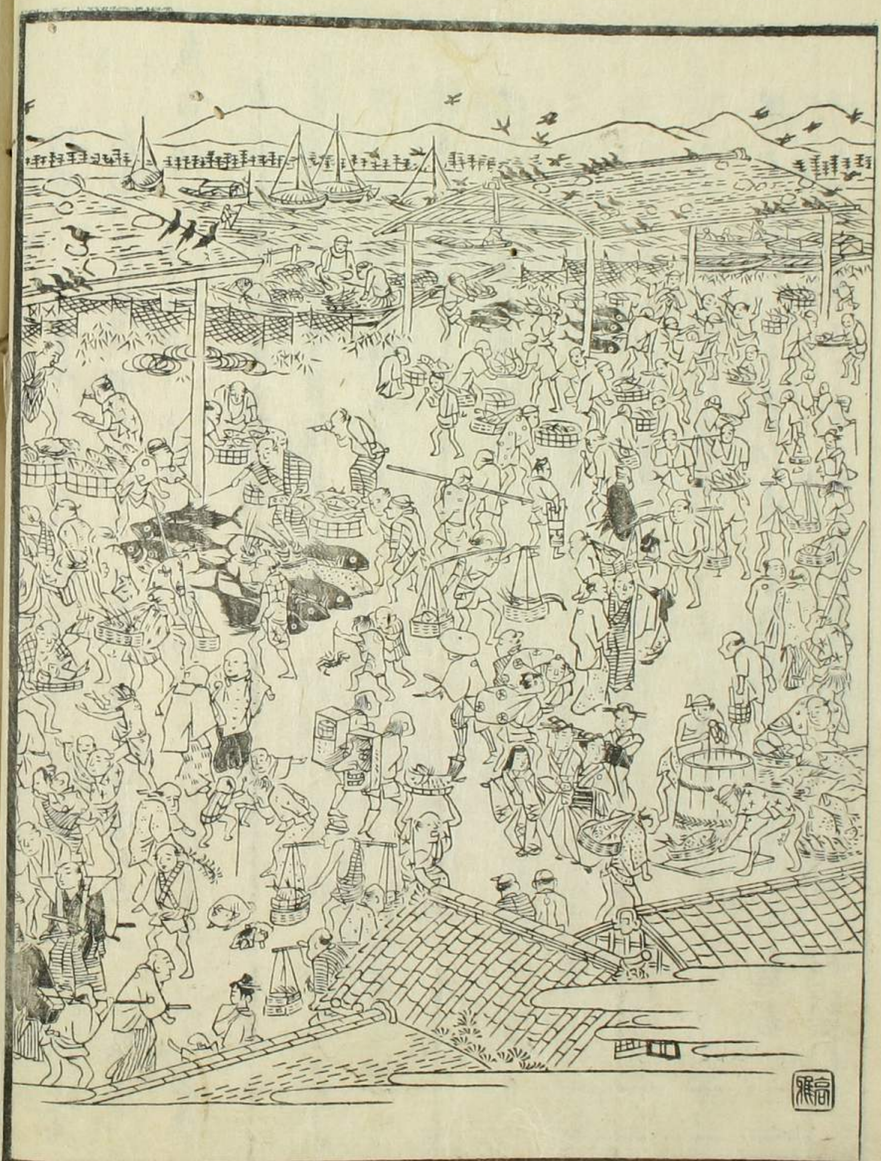
毎年初午に熱田西浦東浦此若き者ども元服して其名を改むる式あり
して去年元服せし若き者と諸給仕
其式を見るに彼装日中に者笠挑灯を
ともし髪の結やう髪形其外にかぶる
ものをかぶりて髪を方より
取れ者大勢あり者れ者ほかちさび
素肉を多沒道のり弓ゝ四五町にもざる
所を見るにかぶりかぶりて家につく
給蟻のごとくむらがり又途中にてはきを
いひ取れの者とかるうすたくばかり石
一つを見るに大なる者にいひ水のうがを
なるとぬきにのりて渡らるるなり其
ごとに大勢ありて石と堀れ木をりて
組へ是水に格を見るにちどいひ比がまり
のおりまき式あるとこを畧す

陽毛雪
ちらさ夕雪ふり梅人の道をうめる沖かをとをみ
あをちらさ春の曙をうむ見ハ雪か笹ら伊勢の高山　服　菜木田久考

魚市問屋

本の元浦より赤の方此浦もあり日ごとに市とあり　當初信長公清須を城のほり氏浦か
問屋数軒ありて毎日清須かに運送せしが寛永
て其創業の年月詳なる夫より連綿として絶えざりしが寛永
のこの後問屋株定まり　株高　仁高　三高　甚三郎　又三郎　七左衛門の内家なり　今かの
海もく繁昌一日ごと　年中魚市夕市にて一日　かに二家で市とあり　小億兆の魚介とともに
湊へて國産の海魚ハもとより近國産物なりも　新鮮にて運送し
又三河の吉田もりハ歩行者にて　もてもらかに送るとかの間をつ
ものもれを即時かに賣捌けとこの時擔夫羣とかして雷同するかの
びもしき聖ふるにものかしかく爭ひ求めて國内ハもとも美濃信
濃まで歩行にて送る主内者名產ものも魚甚多し今
什ぐ一二と挙てもの余ハ所產の変に能て形状風味と記まべし

熟田の濱
夕上り
魚市



鰤魚 [illegible] 知多浦にて [illegible] 知多郡大野浦にて [illegible] 一尺二尺に至る [illegible] 他國に [illegible] 孫 [illegible]

魚 [illegible] 品類多し 久志女 阿以奈女 跋登 和賀 京女郎 [illegible] 上に同じく漢名も亦 [illegible] 形にして [illegible] 名づくべし [illegible] 海底石上の [illegible]

萬魚 [illegible] 古事記の [illegible] 那都久佐能阿比 [illegible]

牡蠣 [illegible] 泥能波麻能加岐賀比 [illegible] 地名に太閤記の大佛殿建立の [illegible] 蛎殼を [illegible] 聖武天皇の御世 [illegible] 美濃 [illegible] 貝 [illegible]

鱸 知多郡の東海 [illegible] 細 [illegible] 捕る

棘髭魚 [illegible] 郡師等 [illegible] 知多郡の [illegible] 日間賀島 [illegible] 女は鯛奥名也 [illegible] 黒鯛 [illegible] 鯛の字を用ゆるも [illegible] 日本紀の神代巻に赤海 [illegible] 下品なり 網目の鮸奥陳蔵曰狀似馬鞭尾有 [illegible] 西岐 [illegible] 東都にては鐵 [illegible] 尾州にて [illegible] 湯 [illegible] 志ゑ [illegible] 伊勢 [illegible] 尾張の [illegible] 海苔の [illegible]

喜子魚 [illegible] 本草 [illegible] 鯀 知多郡のみ [illegible] 海蝦 伊勢志摩及び南國の海 [illegible] 本艸正譌に伊 [illegible] 海参腸 [illegible] 知多郡の所 [illegible]

箭簳魚 [illegible]

魚章魚 河豚魚 小河蝦 [illegible]

甚外鱣魚 鍼口 [illegible]

魚 石首魚 古知魚 鯖 鰹 鰤 鮫魚 鮪 [illegible] 諸魚 [illegible]

他國の [illegible] 知に美 [illegible]

海藻 [illegible] 乱髮の [illegible] 延喜式民部省交易雜物の [illegible] 尾張 [illegible] 海藻 [illegible] 知多郡の [illegible] 海苔の [illegible] 海苔の海藻多し

義教公行殿趾 大[illegible]古町城の内にあり 永享四年 足利義教の富士御覽 [illegible] 向の時 大宮司の命に [illegible] 馬場左京奉行して [illegible] 入 [illegible] 三日御逗留 [illegible] 亀井 逆 [illegible] 和歌の會 [illegible] 行殿の [illegible]

亀服山聖徳寺 須賀浦の太子町にあり 浄土宗西山派 [illegible] 寺 [illegible] 永禄七年七月の開基 [illegible] 南浦の漁人助太夫 [illegible] 者 文禄四年九月廿九日の夜海底より網 [illegible] 汐揚 聖徳太子十六歳の [illegible] 像 と太子堂に安置して寺号 [illegible] 町此名に [illegible] 本尊 [illegible] 陀の [illegible] 像

妙光山本遠寺 白多比南の田中町にあり 日蓮宗 [illegible] 本遠寺 日蓮上人の [illegible] 九老僧の [illegible]

日證應安年中建立して康暦二年八月朔日寂す年百二十余歳

勅して本乗阿闍梨の号と贈らる 永禄十年八月七日法華堂

本遠寺にて連歌 [illegible] 紹巴が富士見道記に [illegible]

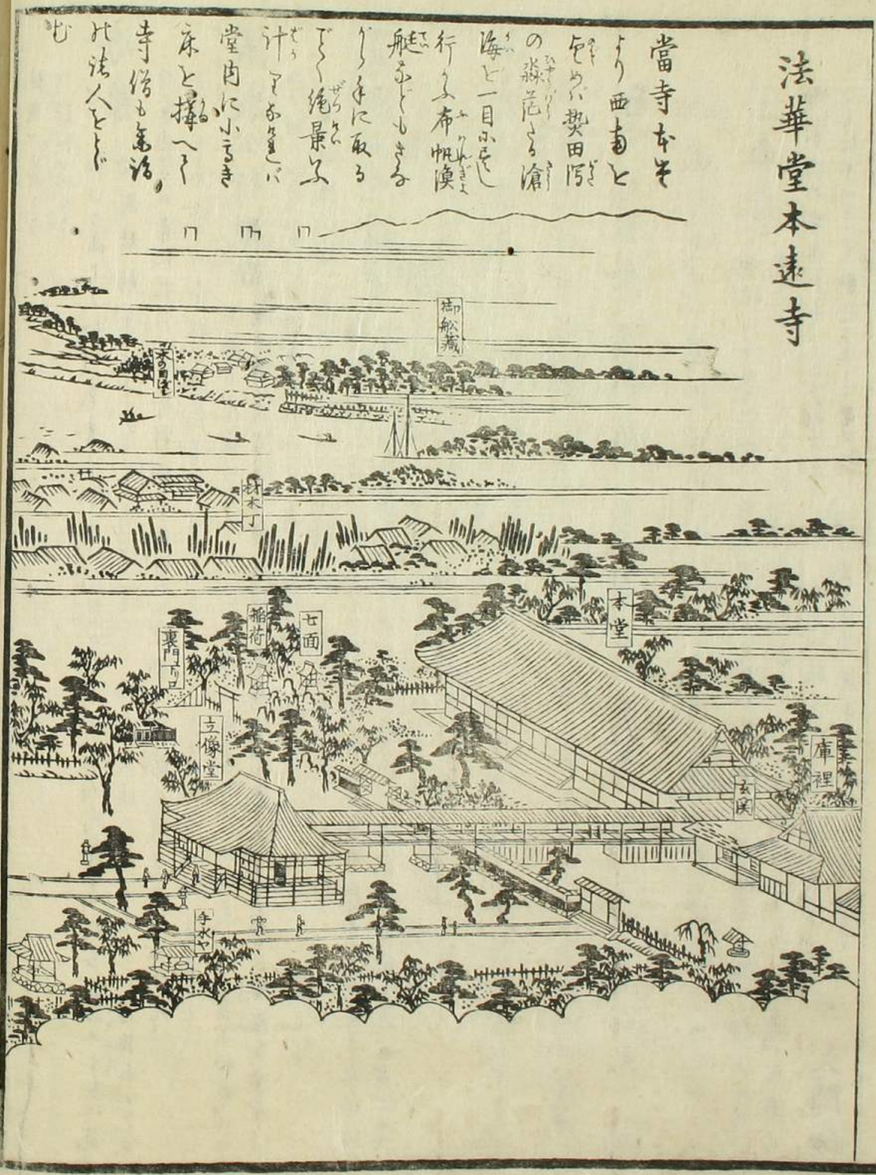
○本尊 釈迦の木像 [illegible] 檀に鬼子母神日蓮の像及び十羅刹女日朗日證の [illegible] 像と 安置すむ [illegible] 日蓮宗國 [illegible] 御本社の境内にあり [illegible] と初女等 [illegible] 釈迦堂と号 [illegible]

客殿 織田信長の書院 [illegible] 九号 [illegible] 十三号 [illegible] 大厦あり

二天門 妙

法華堂本遠寺

當寺ハ
より西南と
なり、契田川
の森花さく滄
海と一目ふ見し
行く布帆漠
艇ふしもきる
ゝ水に取る
ゝ絶景又
汁アるべし
堂内に小さき
床と擬へて
寺僧も高治
ハ法人とゞ
む



法華堂ハ
きさらぎ
発行
紹巴
富士見道記
ゝ
ゝ
ゝ

見社鐘楼等あり

青衾神社 田中にあり延喜神名式に青衾神社本國神名帳に正二位青衾名神とあり是ゝ海家門の外あり青衾祠ハ此社の遥拝所なるべし 末社新氷上祠境内にあり

瑞現山總持院 同所にあり臨済宗美濃の久しい刹の東禪寺末本弘人南部弥右衛門ハ米かゝ 光則法名春潮等 梅草創開山ハ忠嶽和尚ゝ本号地蔵と安す 須賀所にあり氷野為大夫忠政の女幼多郡常清の城を水北 豊為忠綱の室あり剃髪の後ここに居住あり常清殿と称せ也

常滑君屋敷址 同所にあり海土真宗東派参河付寺の勝磐ち末堂宇頗美麗ゝ 所あきいなかハ門ゝ本坊の名氏ちに止宿ゝ

海洞山興徳寺 同所にあり海土真宗東派参河付寺の勝磐ち末堂宇頗美麗ゝ 所あきいなかハ門ゝ本坊の名氏ちに止宿ゝ 古渡比掛所あり

本尊 阿弥陀の木像ハ聖徳太子の作 **什寶** 親鸞聖人ちなみ此袈裟金襴十字名号及び蓮如上人筆此古字帳跋の名号ゝ数品あり

三狐神社 表大橋右にあり往に平親王将門の首と埋しゝ所ゝ 此所に将門の首と埋しゝ所ゝ

扇の橋 同所にあり武所将門の首と埋しゝ所ゝ 此所に将門の首と埋しゝ所ゝ

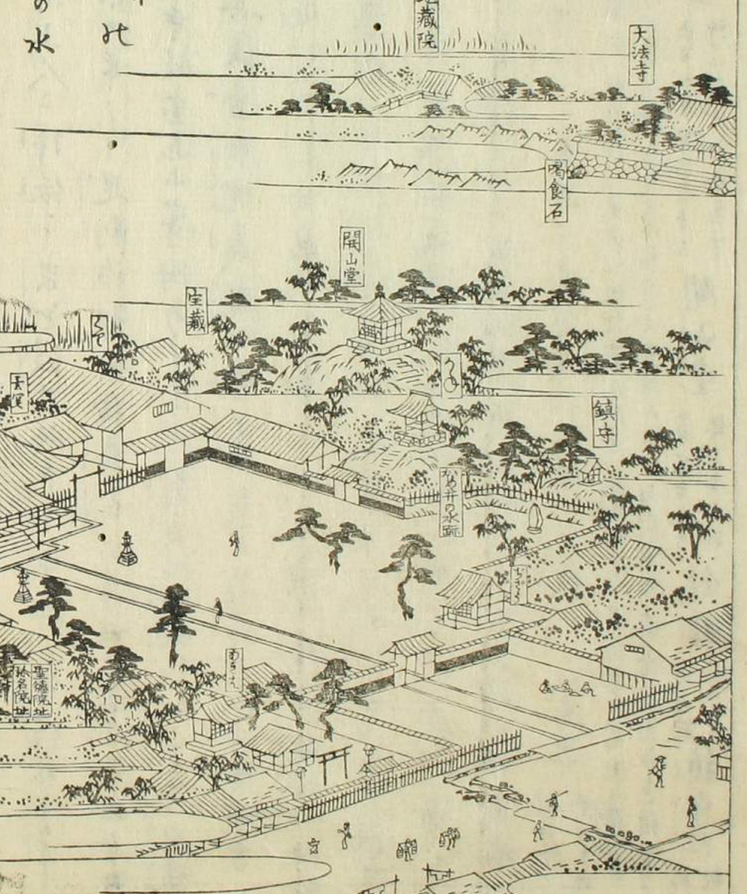
景清社 同所の方にあり平家の勇士悪七兵衛尉景清大宮司此聟あり主家 没落此後身をやつし奥田に潜居せ所ゝ 此所ゝ 木下家ゝ 旧地あり 東鑑源平盛衰記平家物語ハ此実孫に景清奥田にをしすハ孫ねど牧勢を大敵 の余黨と見なして亡ぼれしハもに大宮司此縁者ゝ 長門本平家物語 に景清建久六年癸卯ゝに降参して陽倉の八田知家ゝ宅にあり翌年三月七日 死去せり

亀井山圓福寺 上知加麻社の西にあり時宗末寺四条の金蓮寺末亀井道場ゝ 當寺ゝ 天台の古刹 なりしを開山叡阿上人足利家此一族ゝ 叡山にありしゝ 成あり 遊行他阿上人ゝ帰依し宗を改め此寺を中興して住持せり 元 慈元巳未の年ゝ足利治部太補尊氏公清帰依あり坊舎数十 宇建立寺領堂塔寄附あり 数度此回録にあり 灰燼 あり 其後普廣院義教公富士御覧の為清下向の時此寺に 三日ゝ逗留して和歌連歌の會あり 清の懺悔短冊ハ今所 存せり 叡阿ハ智徳法師且和歌連歌にもすぐれ 呼称演の奇彩後拾遺集に入て人口ゝ膾炙す 叡阿 当寺に 三十年ゝ住てのち延文五年庚子九月三日洛陽四条道場金 蓮寺に移住し慈安三年庚戌九月廿八日遷化○ **本尊** 阿弥陀如来 奥田大神宮 の神作則叡阿ハ接けなし 奥縁之服侍毘沙門天ハ説宣ゝ出現又大黒天ハ踏之此大 玉ゝ 左此足を踏ゝ 奥縁ゝ服檀の十一面観音ハ泰澄和尚の古仏ゝ

観音堂 大日如来及び三十三所の観音を安置す **開山堂** 叡阿上人の像を安置す **鐘楼** 境内にあり **鎮守社** 地主神祇

圓福寺
亀井の水
大法寺
喝食石
地蔵院

汲あまた
すし
亀井
法の水
甚阿



と称る **亀井** 寺中の北の方にあり 歌阿上人人と催ひて井を掘りあけるに更に水湧かるる事三十五日ゆして井底いやしきあに掘出まて歌阿井中にかりて居るに亀の甲地底に出るかゝ庚大あるまゝ初めて歌阿真に此地の蓬莱あるるとさとり甚井と封じて亀井と名づけ山号に陪して灵地とす

二葉楠 由緒なし 灵樹あり **寺賢百韻連歌懐紙** 永享四年九月十三日普慶院殿自筆後名ハ歌阿服ハ義教公戸三歌阿ハ自詠なり **短冊** **追福和歌四巻** 歌阿上人二百五十回忌追福三百五十首なり **織田大和守達勝の制札** 永正十五年午十月日しるす又同人の書状あり五通長秀此書簡毛利弥助良勝佐久弓左京亮信直千秋加賀守範定那古野治五郎勝春ホ数十人此書状又豊臣秀頼の神宮寺に参詣して書つくしたる書状 **芝居地** 明暦二年尚ち慶内ゆて芝居御免鰐口ホの古銘灵宝甚多くして 許ありて奥山法九郎神屋勘兵衛ホ数十因に云ふ是より三年寛永十五年名古屋城内造営の時ち法華宗として者あり女と多く つて来て奥因の町ごゝ見に横ゆとうち勧とそ辛苦ゆと奥行くけるにかゝ法華宗の見物武人奥因へ使にかりるゝ芝居のむしろ開ひのすきるるりのすきけるにち法華宗下人棒ゆて 見物のつと寄るると見物ハいるもゆめにまゝとのき綾とゆて麓戸より見物に入て舞 芝へ切てのゆり物多師ち人女二人ときり後ゆ楽屋に在るち法華宗とゆる底質ゆ出てき 場と立ちけるち法華宗ゆ出て命助うきゆと法華宗 源へけるち法華宗が浄瑠璃を見物 見物ハ見会次第戸成級すべし女ハのゆむ物ゆ 播磨ちうして舞芝ハ破扶料 且ち法華宗ゆ藏主料をもゆ物ゆ女も元ゆすゆれるとゆりゆち下されけるゆ 後撰法 正地尾陽郡泥ホ見えし芝居の旧地ハ行方あるゆ 樂面ハ所まゆ見あるゆ ち物ち

澤野山西福寺 次賀所ゆ法華ハ行法陀ゆ来ハ運慶の作むし百合若大臣堂上ゆ波奪ゆ 寄法華堂ゆいと後世ゆ法華ゆ本堂ハ の記に百合若ゆ人古書に見えし 日本武尊とあやまるゆ見本國及び九州の内に

百合若大臣の故跡と云う地は必ず日本武尊を通し給ひし所なるべし満ずるに合せて氏婆田地に百合若の古跡と云るは頗授あるに似れども云々ようり越前れ幸若が章曲にのりなる大臣れ舞ありてそれ又豊後國船居今の府内にも此沙汰ありてこの昔池山万寿寺に百合若及びそむすめ万寿姫の位牌あり安置しれば今日本武尊と別人し

織田侍従信孝出生地

氏も社家の生也なり信長公の侍男子二人出産ありしかれば殺して出産せすとなる迷れ台聽に達す故に二男に生らる今一人は三七郎信孝婆田神人某が家にて三助殿と廿余日まで出生あり一名けん信雄と云見えしかども三男に生らるれよりつゝ信孝学に勢憤を不幸にして信雄に越され三男にあり又信孝と計んして政のぶ為を羽柴秀吉池田信輝信孝にもとりて光秀と

金鼇山天祥庵

中流町にあり

金寶山地蔵院

因所石橋村万徳寺末

花園院の御宇文保元年牧権太輔奉忠の室冥福のため幡屋村に開基し金海法師を清て開山とし奉忠遺金殿か

由緒あるとそ甚室に力王子社称号義幡屋村の内に寺地とそ甚砌は寺門も廣大にして大伽藍の佛場あり弦る小星霜二百五十餘年を経て大に破壊し殆て基趾を失ん時に天正四年今社地にうつり則政堯法印を中興の開山とす

○本尊

地蔵菩薩大師の作なり弘法大師自作の像なり

鎮守

白山権現

寺寶

足利尊氏公像土佐光信筆なり小具足馬上の像なり

地蔵菩薩画像

足利尊氏の自画賛なり上に夢中有感通今我画尊容利濟編沙界善根無所極と四行なり末に文和三年六月廿一日仁山書為大平越前守寄進状文保元年三月十五日貞和五年七月十八日永享八年七月廿七日文安四年六月廿日宝徳四年正月十二日文正元年五月朔日中瀬刑部左馬介家親已下十二人連署の状に

幡屋に塔ありしと云事西ハさんくるの堺より玉井猪四方堺まで未代地蔵院為伊和尚
古屋ゝ林坊為住持伊勢法師修理亮の十ヶ村高儀ゆ件と云へとも其旦過と云
系ハ今大福田社の也に旧名のこり玉の井と云も此北の辺なるへし地蔵院の墓地の廣きを考へに足まし
つひ法くられハ幡屋ゝりハ法華むり地蔵院の墓地の廣きを考へに足まし

禪徳山大法寺

日所に有り除俗宗臨済妙心寺末元和三年藤田民部少輔安重の建立なり

本尊 釈迦佛運慶の作 **喝食石** 門前にあり高さ二尺横地上へあり法歌

圓融山瀧之坊

坊内町にあり天台宗野田善蔵院末天文二十年良温法印創起
郡古井村ゝ移せり織田信長ゝ信秀中興す信長ゝ幼年の時
此寺ゝて手習せしと云ふ

本尊 虚空蔵菩薩 **寺宝** 信長ゝ所持せし竜の硯七つ内ハ老松一抽妙法院常瀧法親王の御筆涅槃像兆殿司の筆

大変も故あり

夢違観音

馬場町にあり天台宗浙日沖宮ゝ末 **本尊** 宗頑 紹巴 桂五

宗長の文巻を見て

宗長ゝ来宿せし屋敷

完治ゝ時頼の守本尊にして夫婦いちゝ
るゝ様に行き者と云ふ者也と云ふ

に必ず感応あるゝ事有

池殿屋敷

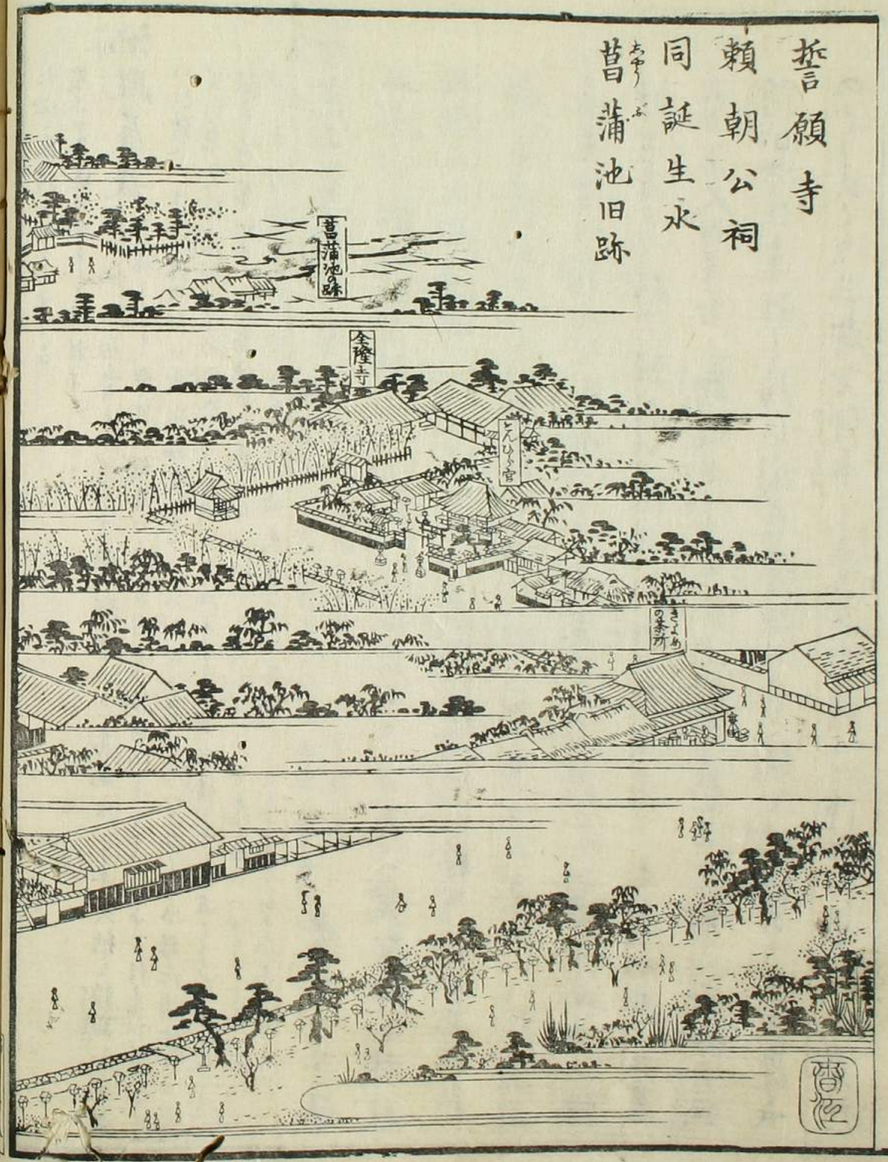
今池坊屋敷ゝ称す 池殿ハ大宮司季範の伯母ゝて頼朝ゝ母池の禅尼
池殿ゝ平治の乱に被切幼年ゝて死刑に被せらるべきを池禅尼情盛ゝにあひ
てたすけられ伊豆ゝ流罪ゝ成ぬ其年ゝ源氏平家為信ゝ起り頼朝ゝ挙兵ゝ
源平盛衰記平家物語ゝ詳し

妙光山誓願尼寺

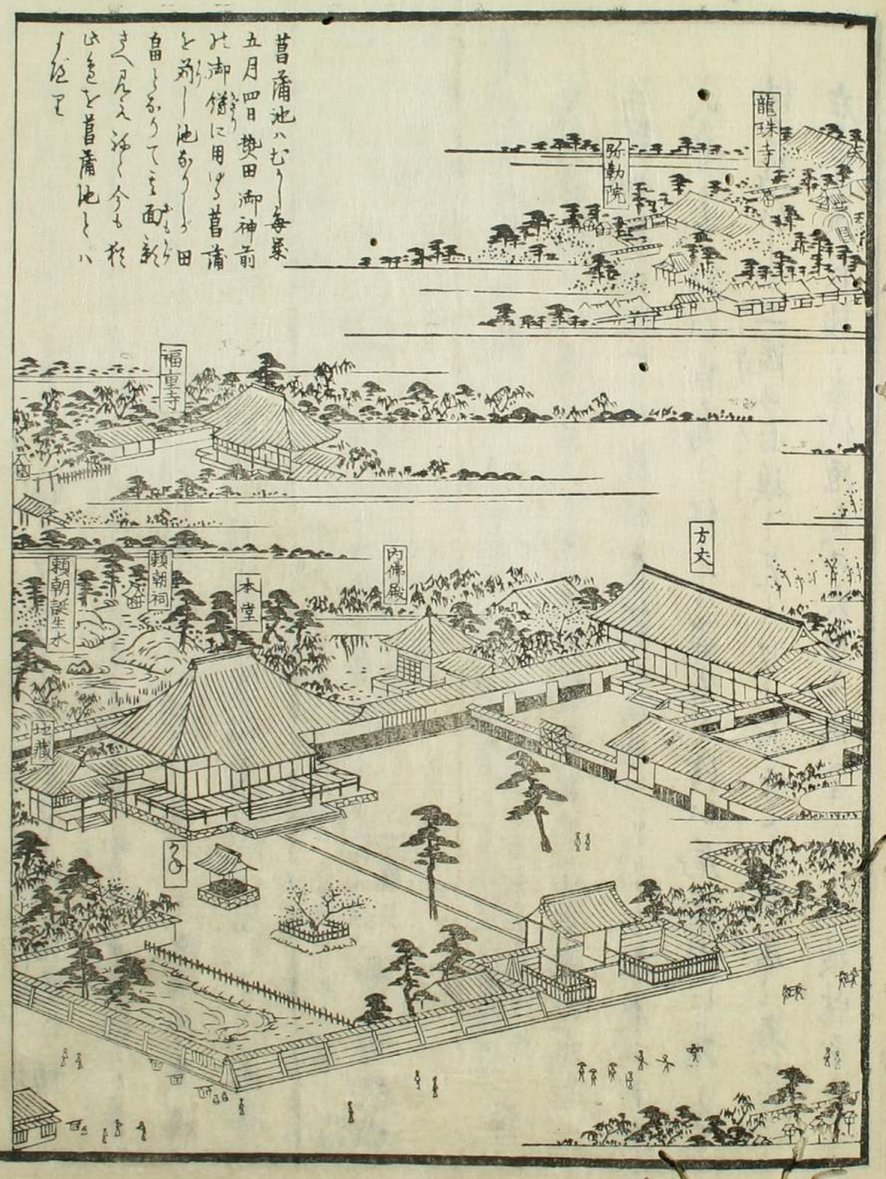
幡屋町にあり浄土宗西山派世ゝ号ゝと 当寺ハ享禄
勅許せらる 奥田上人ゝ称す

二年の創建ゝて開山ハ日秀妙光尼なり日秀ハ愛智郡小林村
の住人山田爰蔵の女ゝて吉野右馬允に嫁せり右馬允越
前ゝて戦死せしハ愛別の憂に沈み翌年十九歳ゝて信濃国
善光寺に詣ゝて剃髪ゝて善光と号ゝ仏寺を建立ゝ佛
師と京より招き弥陀の尊像を刻ゝて安置ゝ元亀元年五月
五日上人の号を勅賜せらる天正十九年豊臣太閤の御母大政
所此寺に来詣ゝ給ひ関白秀次ゝ寺境を増附ゝ又慶長
のちゝ三都を往復ゝ豊臣秀頼ゝの御母ゝ淀殿此寺ゝ所

誓願寺
頼朝公祠
同誕生水
菖蒲池旧跡



菖蒲池ハむかし毎年五月四日奥田御神前ヘ御供に用ひる菖蒲を刈り一池あり〻田畠〻ふりて今配新宅屋敷を菖蒲池〻ハ



崇源院君ホに帰依を勧まゐらせ給ひ法華に預り
同六年二月十日迄化あり往生のみぎり紫雲たなびき糸
竹音楽きこえて奇瑞の相をあらはせり其後元和六年東福
門院御所より源敬公仰ありて寺領寄附ありしなり○本尊
阿弥陀の木像 鐘楼 天正元年信長公長谷川五郎左衛門に命じて造らしむ近江国油火大明神の材を取りて鋳ら給ふ元亀三壬申十月十四日
寺宝 木牌一枚 右大臣豊臣秀頼公の真筆にして扁額と 堂前額 青蓮院尊朝法親王御筆
右大将頼朝公誕生地 楚秀寺の境地に教願寺あり其社清水八幡宮の例なるゆえに彼産湯の地と称す 神
皇正統録に久安三年四月八日源頼朝誕生是左馬頭義朝之
三男母熱田大宮司藤原季範之女也〻ゑ〻〻敏卷に日本
武尊〻ゑ〻〻白鳥と化して飛去りて尾張国に落ち
給ひしが二流の白旗と見えけるところを幡屋と名づけ
右之帰依教願ハ歴代源氏の大将を成べき所なりや彼幡屋

生まれ給ひしと記せるハ則ちこの事なり 其一代のうち実ハ東海及び安達盛長聞書ホにくハしく
官位昇進の事ハ公卿補任公卿傳等に記して白河人の知る所なれば是を略し其
薨逝の年月ハ東鑑ホにくハしくれど正治元年正月十三日五十二歳にて薨せまつる
百錬抄保暦間記兼久記等の諸書に見えたり 紀中東鑑建久元年の条に十月廿
七日御潔齋令奉幣熱田社給依為外戚祖神殊被致中心之崇敬と見えたり其後神馬
御剣等度〻寄捧ありしもこれ公武地に産土の国なるゆえなるべし
草創ありし武将五君に過ぎず内此五君一の魁にして末代まで
武士天下を治る此規範なり其草創の五君を称するハ頼朝公
尊氏公 信長公 秀吉公 神君なりしうち頼朝公ハ幡随信長公ハ
那古野 秀吉公ハ中村の出生にて日本廣く知る五君のうちに三
君尾張一国より出給へるハ偏に南国の眉目にして熱田大神武神
ホにまします国家鎮護のあらたなる武勇を生産し乱逆を治め給ふ
所にして尋常の奇遇にあらず その外織田信長公家臣羽柴秀吉公 前田利家 柴田勝家 滝川一益 佐々成政 丹羽長秀 蜂屋頼隆 森可成 池田恒興 佐久間信盛 水野忠重
田原坂田中野城開平手政秀 内藤清成 加藤清正 福島正則 蜂須賀小六 出生 千石秀吉 豊臣秀吉 南蛮の昔と思ひあり
平野陸川ホとなりて日本に英雄大形ハ尾州に出生 豊臣秀吉 南蛮の昔と思ひあり
誠に不思議なるなり 又信長公尾張人物志の跋ホと是を称せり

亀寶山福重寺 曹洞宗 西陣にあり 所田島田通寺末 延永元年陸井右近善長の建立なり 吉蓮山福聚寺といひしを後今の文字に改む右近善長は長尾右近と名のりて越後國上杉憲信同祖の一族なり善長の子孫中古秀國も奥田の人なり延徳年中大鐘一口を鑄て神宮寺にかけしに名古屋永界寺所藏の浅井系図に見え今無見寺は浅の誤なるべし 本尊 釈迦佛 記に弘法大沙門作

政所 奥田大神宮の政所なり 神事祭礼雑務を沙汰する所なり 五月四日の祭礼早々衣に入るを参るなり 神祇官の外ねんすまバ神罰てこうまを見る事なり

白鳥 奥田村にあり 西條川の岸なり 日本紀古事記とも神皇正統記ホに日本武尊崩御ありて伊勢國能褒野におさめ奉りしに白鳥と成て飛去り給へ云云 上奉大宮の傍下に委敷出せばこゝに見と暑に 舊事紀に 日本武尊平東夷未還薨尾張國矣とゝんて此國ゆくゝかゝ御ひしゝ給へとさ行ゝバ南國に沖陵あゝゝ又歛葬に白鳥ゝあゝて南をもて飛ひゝゝ東國に飛逐り尾張國松姫島に飛落給ひぬゝ所を白鳥塚と名づけるゝ記せり白鳥の陵也にゝ云地名ゝゝ

白鳥山法持寺 白鳥にあり 曹洞宗 所田通寺末 宝德元年 明谷義光和尚の中興なり むゝ弘法大師此地に来り奥田社に百日参籠して行法を修せゝ給ける其脈に地蔵菩薩の像を彫ゝて此寺に本尊とす ゝ寺傳に見えゝりさゝ見バ曹洞宗日本に開創せゝ以前より奥田に古ゝ古刹あゝ 宝永のゝゝ南北行基慶春和尚寺に滅れの菩海寺に輪番に詰けるに町より落馬せし犬と一疋引来ゝと古老見て何ひゝに毛衣の色に彼犬来りて我ゝ寺の新あゝゝ告げれども信ゝる者なゝゝ思ひてゝに何ゝゝ次の夜の夢に犬又来ゝ我実にゝ方の犬之東西地と云ゝ世ゝ夜にのゝ居を合とも長老ゝ和尚ゝてくゝゝ奥ハ同ゝ閑に云ゝ世けり 宝永十年此寺に江州あゝて法國より雲水ゝ集りけゝが老老の犬と同居同食せるを怪みゝゝゝ江州を公儀せんとゝひゝるに老老ゝゝ次第ゝ語ゝゝ 本秀和尚性に初て語ゝゝ 因果物語及び尾陽雑記に見えゝり

石垣築墻 歳重にかゝ四へ堂塔魏ゝゝして自ら小城郭を見るに 当寺ハ地民屋より遥にゝゝ石礎をたゝ矣あゝゝ南ハ水湫湫ゝる蒼海と眼下に見おゝゝ西に御船蔵木芽の後ゝを見ゝゝて裏に雅境の好風あゝ

○木尊 延命地蔵 此光像弘法大沙の作

白鳥陵 本堂北にあり 南北へゝゝ丘山あゝて南の方に白鳥の祠又北の方石塔と納り 坪あり 奥田祕録見聞抄に白鳥塚者大明神ノ御墓塚也

法持寺
白鳥山と
通称す
白鳥陵

尾張名所図会 白鳥のみさゝきに
宣長

高くしゐたる
山路哉
しみ
白鳥の
うもれて
いとゝ
路遠そ
こゝ

白鳥の陵
白鳥社
木堂
僧堂
月見亭
先月亭
書院
大座敷
高岩
御殿
此也数丁の間白鳥御料木蒔の所

八丁
御船蔵
白鳥の陵
白鳥の陵
白鳥の陵
白鳥の陵
書院

中ニ馬腦石ノ塔有座八八葉也又塔ノ中九穴八葉ノ九尊各住所有也と乃えて其文義もこれも今きりかうゝ宝うゝ次

塔頭

高岩院　大虚院　梅夢院　月笑軒　洗月軒あり

臨濟山龍珠寺

昔蒲池にけり係厳宗京紀妙心寺末天文元年加茂延隆入道全朝の建立なり開山南渓紹化和尚ハ博学多才にくらしあり京洛に住せり時土卒乱妨と奇し氏傍と生捕てあと乞けるに傍のさく我貧ゆへ一ぬの出すべき弟命我ハ出あるべしあ議入用の義にけるハ用に立へしと義人けるハ沙汰するとゝ云あるかまゝ屋敷につれけるとき乞人あるハ賣るべしとて見せて伺るに黒四一宮拾ゝそ出もりハいつぬるゝ歩中ゝ寺の寺にのゝ乞れハ少ものゝ乞れの恥労にいかゝゝ義へしさるハ呂人ハ出あるしとて如義集人入道全朝鳥目一貫文ゆて買衣帷を解て請よりけり仏法を問ゝ出家屋と流すゝ

本尊

釈迦　弥来

ゝ実に南渓ハ名ゝき学傍あり

清の茶屋

天明年中の建立日ゝか清水をゝ茶を賣るゝ絶えぎねハ大宮へ寄絡せ人ゝハ一松ハ茶をもゆゝゝ世の接待者ゝ事ゝゝゝ茶屋ゝ通称す又氏茶布冠月匂れ額翻ゝ蛇ゝ年ゝ月ゝに怨へて法人の目と思ゝ人と感ゝ新奇ときゝへゝ

金毘羅大權現

清めの茶屋の西にあり　俗称延命院也

夫當神躰

ハ京極ゝる尚溪州より為ゝ小溪へ移ゝ時象頭山にまゝ夫ゝと彫ゝ央ゝ

て流ゝるゝ何ゝ反上ゝに神像ゝ尚行の浮像

ゝ知ゝ寺ゝ成東千手觀音枕上に立ゝ汝海中ゝて拾ゝ

南溟和尚の古事

像ハ金毘羅之汝ガ武運を護ましん信心おろそかなるべし告
きゆひて若宮ねうを尚有ぐ〳〵思ひすいて座安内に祀りより
しづこまる後南地へ頒けをまし〳〵と宝暦十年より南院に安置
して日〳〵の参詣きゆひる事あり〳〵実弦世に知るところと

下知我麻神社 鎮皇門の共れ築地の外にあり奥田珍社七所れ一社なり紀大夫社と称す 延喜神名式に下知
我麻神社本國帳に正二位下知我麻天神〳〵國造小止與
命の妃真敷刀婢命〳〵建稲種命の妃玉媛命二座と参まる

宮團扇 鍵屋町二ノ参居の上家〳〵ゆてひき〳〵出ぬ〳〵てつ〳〵地紙ハ彩色れ菊花と画き
風流をつ〳〵せり南國津〳〵の團扇ハ京師浅草に似南面の製ハ江戸團扇れ
作れ妙他に比類なし又一ノ参居れ例に丸華堂〳〵て摩扇とつる嘉ひる色風韻あり〳〵て製
堂上方と始め諸国れ文人 或ハ地紙に絵ど浅山水花鳥と画きて摩山れ製に異なるべきれバ
競ひ求めり〳〵清玩〳〵より

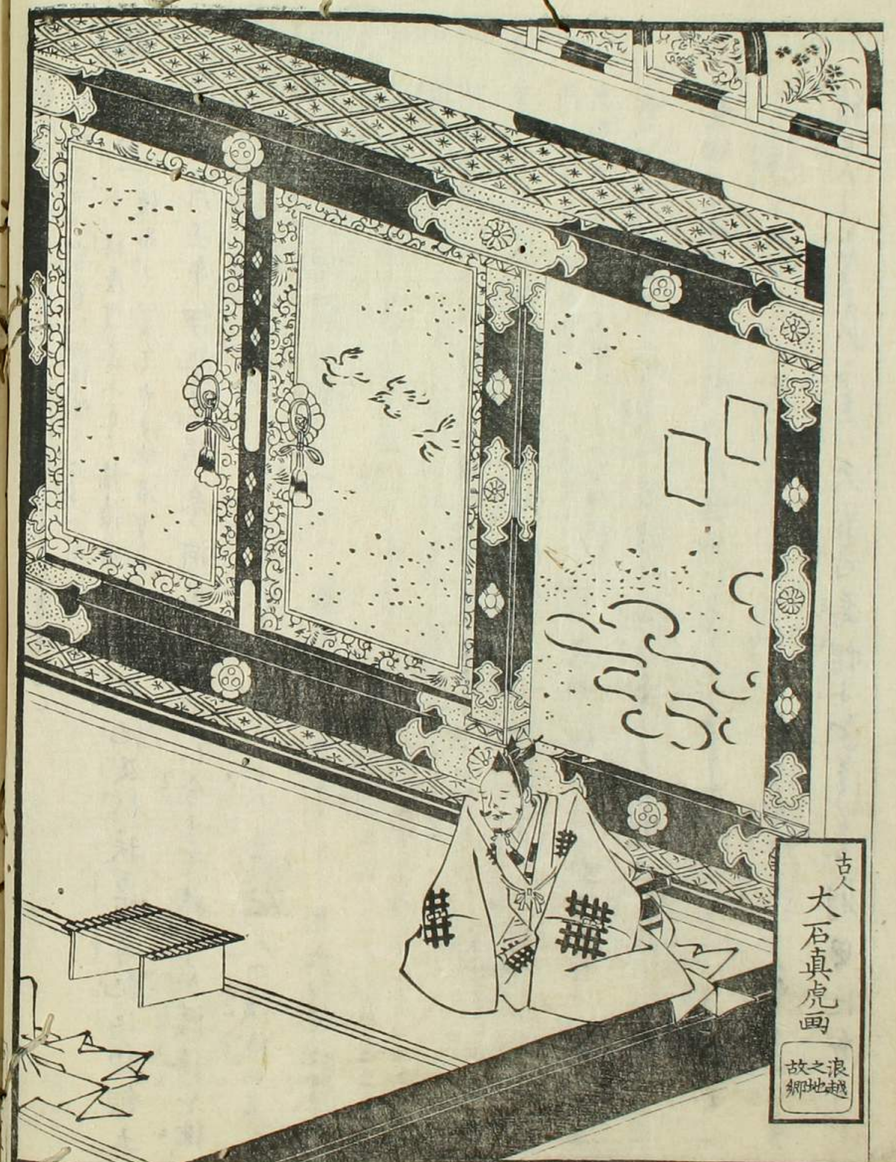
土器 同所中〳〵つるむ〳〵南部焼器所村に造りて奥田大外記〳〵製ビ〳〵摩焼器所と
名ぶ〳〵て中世〳〵ユ人〳〵〳〵〳〵

旗屋町

松飾

熱田社町々に立る
元三の門松ハ地ハ美ゝて
松ゝ竹の枝葉ゝ常春ハ
立つゝ緑ゝ色ゝ
竹林に入るゝ
ゝ
ゝ

義經
元服
の図


古人
大石真虎画
浪越之地故郷

大明神に系洋〜左馬頭九郎義経と名のるゝ義経記

見えゝり

鷲峯山　所夫も山より遠く所の西の方にあり陵墓れ形しるる丘山と雷こゝ小早
こゝもその人の庵あるべけれどゝ伝ふ世て誰しるすとゝ或ハ白雪れ陵見こゝも
ゝり見又性あり流沢あり山ハ峯に人の入る事を禁ぜれども三月三日に八雲る多を
ゆゝして法人老流の奥を尋ゝむ折ゝ樊田沼の汐干の風景眼下に見え後ゝ孤に
住こ又武山を鶴山ゝ云る法仮ありて藤波第に尾張とかけり浅虎に藤山ハ尾張国山名
ゝ記して以ゝの所ゝ云ふ春日井郡吉根山ゝ皆非こ或人云尾張風土記に斧根山ゝ云る羽栗郡小見え
樊田れ陵だん姫山ゝ云ゝ

夫木

ふそ又こゝれ藤山ゝ郭ゝ云ゝ初ゝ世ゝ影入ぬる　大納言経信卿

少神の家ゆゝ出ゝ有ゝ藤山の梢藤の夢　慈鎮

あゝの世ゝ孤山のすゝに分て袖ゝ涼ゝ小男藤の声　上蓮法師

連ゝ引孤山ゝ有ゝ白雪れ散ゝ小男藤の声　従二位行家卿

名寄

衣ゝ川孤山の麓の志ゝ雲も初ぬ春ゝ藤ゝ枕　西園寺入道

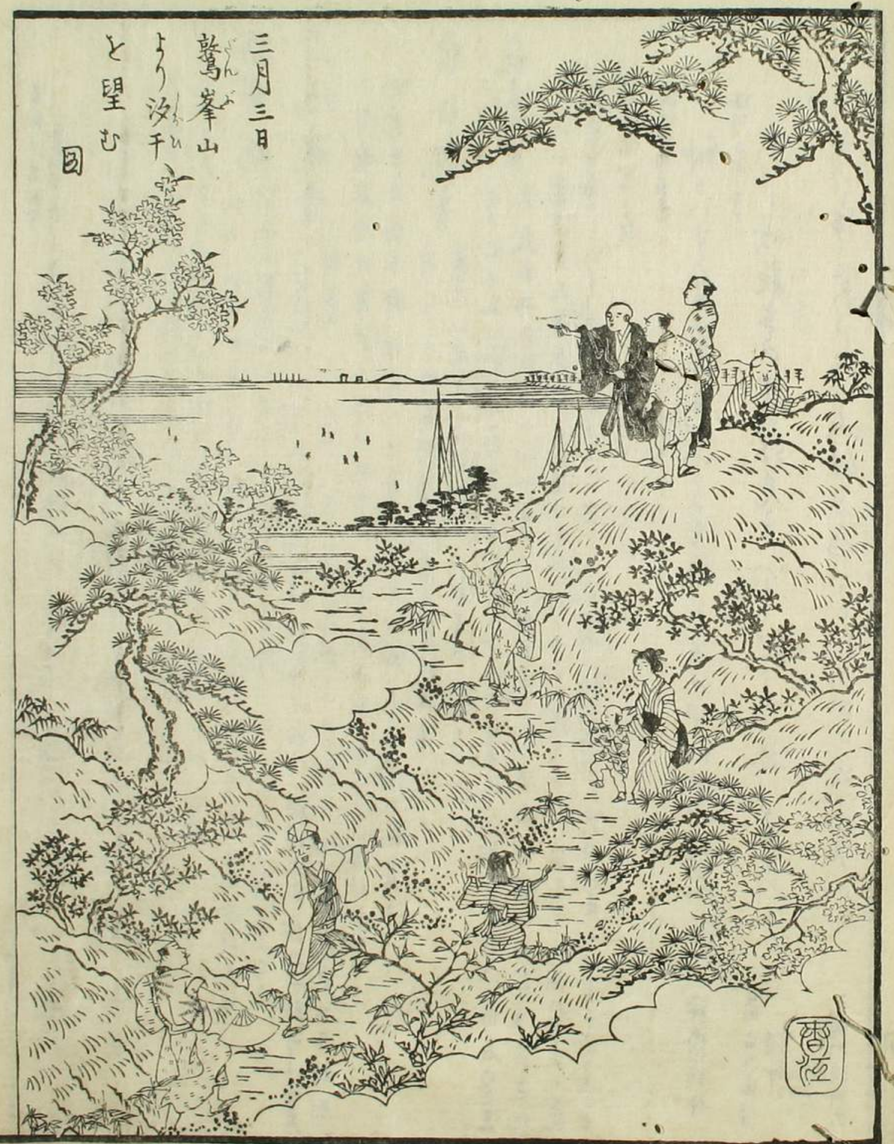
紫禁草

雪ゝ見ハ初ゝ藤山や若ゝ葉ゝ若ゝ右の梢につゝみ初ゝ　順徳院御製

良玉集

藤山進ゝ男の名ハ有ゝ藤ゝ　孝吉

三月三日
鷲峯山
より汐干
を望む
図



奉納千首和歌

さらしなや　姨捨山よ入る月も　今やをそくの　秋の夜ぶ　長伯

おちこちの　おくや秋山の　ゆふ雲　椎のこずえと　霧ふかいて　紙足

又藤山と　同郡の中根山　ゆふ　汲もあるて　名もしらぬ一定　ゆふけとが
らの外れ　古名ハ中松山の条に　挙げて　物語考　まれの名

将軍塚

北山に　ゆく　七月十三日　面白　景　絶　ゆう　赫燈　まれ　ゆう　面白　北芝池
の女　ハ　絵　を　とれ　妻　ゆう　ゆう　ゆう　に　彼　の　絵　と　ゆう　ゆう　ゆう　ゆう　ゆう

六地蔵堂

だんぶ山　れ　ゆ　華　に　ゆう　憐　れ　地　義　ゆう　称　す　尾　国　古　地　義　の　一　郡　み　て　夏
佛　ゆう　の　沢　中　ハ　中　一　中　嶋　郡　一　宮　波　岸　瞰　の　地　義　中　二　ゆ　郡
小折　村　ゆう　雲　地　義　中　三　奥　田　情　を　れ　地　義　中　四　美　智　郡　ゆ　海　村　ゆ　の
地　義　中　五　海　東　郡　根　高　の　地　義　中　古　中　嶋　郡　六　角　堂　の　地　義　ゆ

宮谷観音

ゆう　ゆ　や　町　ゆ　例　に　ゆ　名　古　屋　俗　称　清
壽　院　に　ゆ　す　面　ゆ　三　十　三　観　ゆ　の　一　ゆ

夜寒里

ゆ　夫　木　ゆ　の　ゆ　れ　ゆ　高　義　表　の　ゆ　れ　方　ゆ　ゆ　ハ　里　ゆ　田　畑　の　み　て　宮　名　の　ゆ　を
行　及　び　藤　注　ゆ　ゆ　集　ゆ　に　尾　張　の　名　所　ゆ　ゆ　ゆ

富士紀行　長谷の里と十も氏ふるき佐しく

よしさはやとうとしと旅衣よるむの里をとまりてそゆく　紀大納言雅世

覧富士記　よるむの里は伊勢とうしと思おもひて

なきあるいつも秋をれ里もれて今文秋の旅ねもあし　堯孝法師

俳門素集　月お持衣しとうるとうり

吹風も寒さまさるき月かけよ秋をれ里は衣うつり　阿闍梨明淵

寒さはきよるむのさのう枕され一夜もいそ浮まね　磯足

類題若菜集

呼つるの渡風をつきさるし里も秋をの衣うつ音　伴蒿溪

蒙集

袋秋の秋をれ衣うつうてもきうつあるぬる里れ人　津金胤臣

里れ名の夜をにもくすあ寒のおきあて渡衣うつん　勗

名所連歌千句

いそて枕月れ秋さむの里かうん　賢倉

高座結御子神社　祭神速秋津神　海神神祠　祭神蛭子神　大黒天神　新宮祠　祭神素盞嗚尊　もに境内にあり　又小祠多く又廃祠も

すくあり　伊本地堂に毘沙門天を安置せり　今八社人の家に納む　去る比ども例年四月三日ま

も当社れ神供所ゆ伝ハ像と剛康一法人に拝せむ　彩像ハ弘法大沙れ彫刻　又伝日彩

前りてきさいたるとハ伝ハ作りて作りし小判と　抑当社ハ奥田大宮に復ける

後に清福ありひて必ずとあるる事あり

大社のして凄然る森林鳥声風籟まで耳に異ありさるべうるるる美ゆる　桃烏

麦畑へ風の揺やる　義仁一の有

玉井里　言義宮地南れ方にあり又葉栗郡にもあり　伊勢国地名考に体

夕立れ一切りるる雲の梨ま　れくれ田家れ玉の井れ里　中勢

富春山妙安寺　古尾頭町の西側にあり　高義宮の也　海

とらる所に記る寺　堂宇廃頽

して年久くく本寺ハ氏家につくてありるとれ家れ告りて　奥家津田富春とふ

との買求め堂を立て安置ハ寛文九年　伝ハ教主周元通宝の古　辨天社　祭神　抑

桂沢の記をし稿し富　銭と集めて鋳造しけるとぞ　祭神

春山妙安寺とぞ　本尊　正記ハ教主周元通宝の古

當山ハ近く　塩川の流まに　郊野と見渡し

て春の曙雪の風ぐるる　影ひるき風系あるバ昔う雅客の来遊

大方ふ波詰ふ誹の跡辞も多けるべうこをと暑ぶ一二を

高藏宮
夜寒里

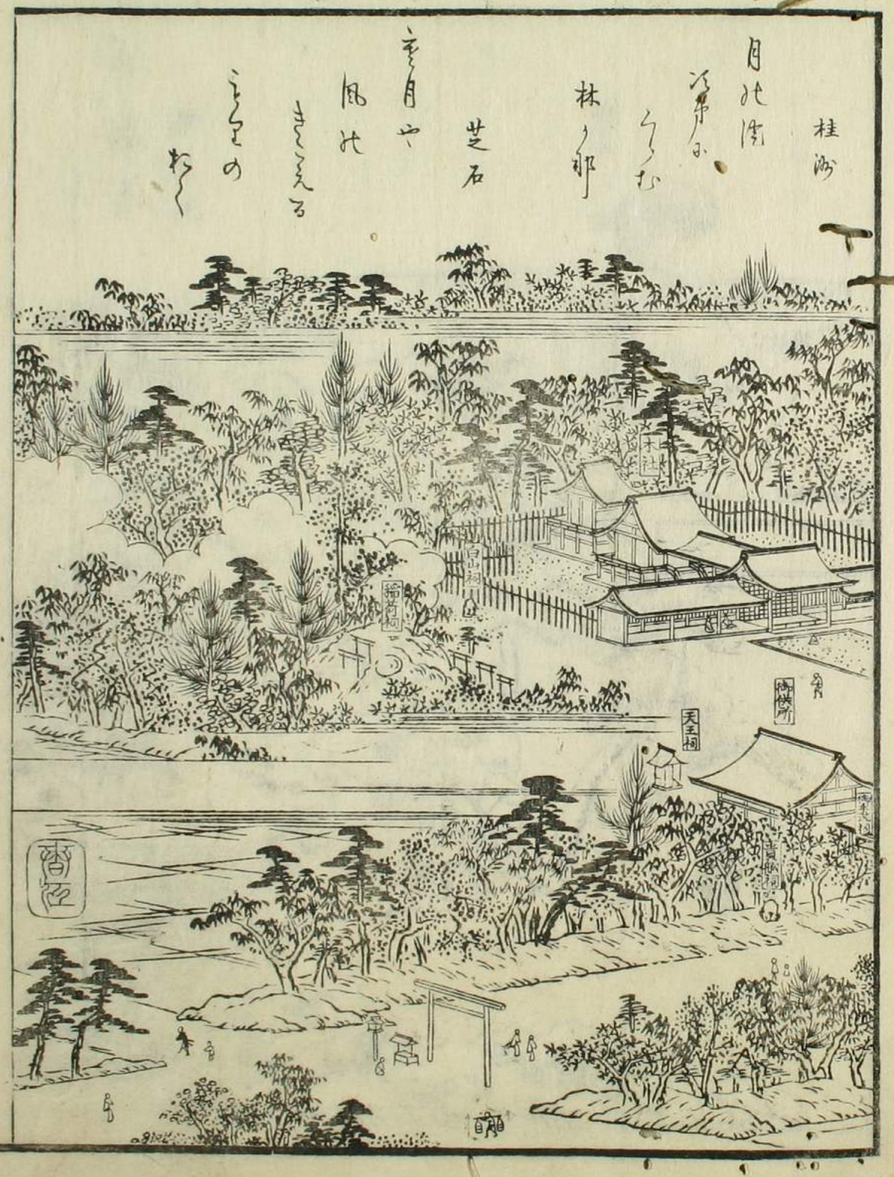
仲實朝臣

桂沙

月出

林の郡

芝石

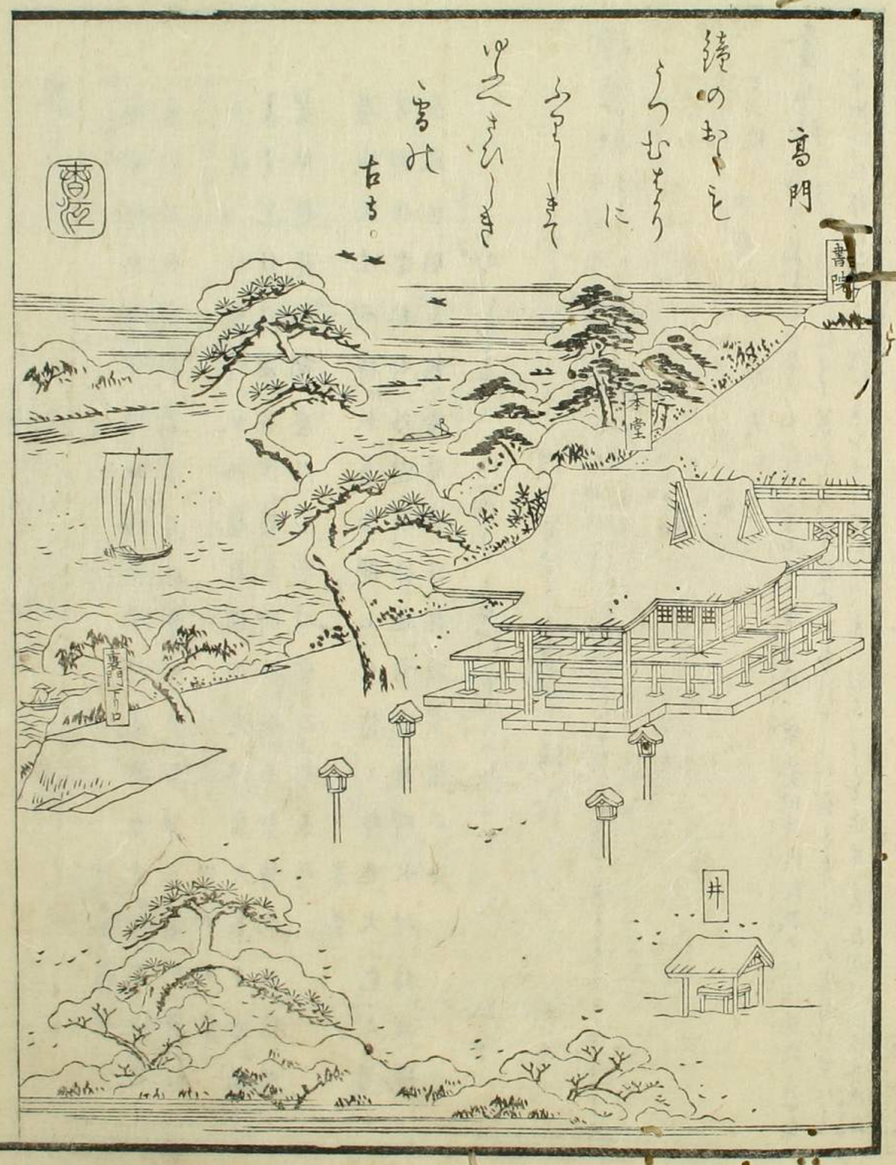


澤の観音

蠅生木

高門

綾のおくを
ふむまろ
に
ふるしきて
ゆくさもしき
雪ぬ
古ち。



拳の社

防丘詩選

静閑招提境共期物外遊雁呼遠邇侶風送去来舟
密竹疎林晩新霜古岸秋登臨多勝事不識夕陽收

井出禹臣

蓬左詩帰

江邊一宇倚清秋西嶺影傍西岸浮坐久翠岚當檻
盡望来白水泛舟流樓高聊欲傚王粲詩就無坊問
慧休料得此間塵外境暫時官暇好来遊

田中尚章

泰翁

浄域風涼不待秋悲閣上意悠々暫逃火宅人間
苦聊作雲林物外遊驛路通前宮北畔水村接後澤
東頭無端惹起帰時興欲就漁家借小舟

春秋果

五雄

かまて木陰き寄せ鳥う郷

槻鳥

住吉社

尾頭町西例にあり〻〻小社あり〻と宝暦十二年三月一庵と書き〻〻黄檗宗東輪寺より招禅和尚来り住持せり社地堀川岸にて地こ〻西の方郊野にのぞむ

本社 祭神底筒男命中筒男命表筒男命神功皇后

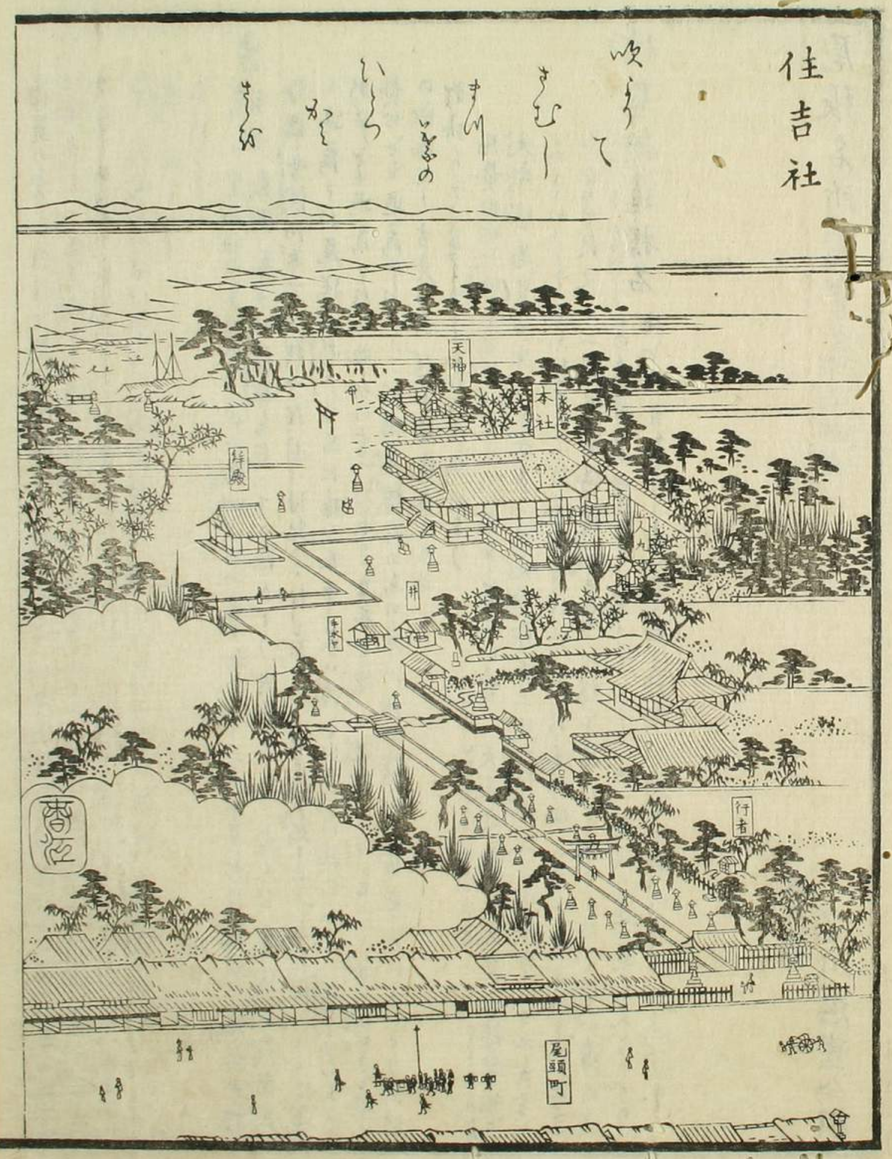
末社 天満宮 深草天神の画像菅公の御自筆し

人丸祠 歌仙の作也北村季吟の

例祭 三月十五日八月十五日

古木繁し

金山社 一の鳥居北にあり金神金山彦命天目一命奥田伊織の源治尾張屋四郎の祖父〻〻に住けり義和の比屋敷内に勧請せしに慈永年中大害ありけ命にて中敷町に移せり十数年を経て〻〻と近年名古屋に源治又淡あ



商買の者ども修復と加へて花麗なる社とあるを二季の祭とす彼屋敷より伝来と称す
氏家古ども一血逆流して今も祭祭を又十一月八日に八浜人輩とあるを社の畑中に
大なる石ありこの比ようの地蔵と云ひあるうて癒疾あるもの祈願するに必ずあり
又金山の麓にかもとあるを畑あり按ずにこれも亦浦住の湾あり所の伝へなんぞ
字に称とあるべし

古城址

金山社の東にあり世に城畑と云ふ養和元年三月十日新田逆討の為頭中将
重衡権少将維盛朝臣を下る原氏より武官十郎義人行家卿公義国尾
張国要害に下て義朝義国ハ討死す行家も引退き中越と云所に陣とり又義
も逆義され尾張国知多郡の内に陣を取平家ハ陣を行とて陣に来て責下りて
知多郡とも逆義されて奥田の宮へ引退き義と壊て橋撫と撫き義少て敵き
奥田とも逆義されて三河国矢矧の内の岸に城を構ふ盛東氏にて
の城郭と古老ひ伝ふ城構あるの形
残りて高もとあり城址あり

凡奥田地に確を用ひざるのハ寛平御宇一日大確命二日小確命三日小確命ハ日本武尊
大郎媛為皇后生二皇子神一日大確命二日小確命三日小確命ハ日本武尊
大足彦忍代別天皇立播磨稲日
と合せて又十二月廿五日御煤納一の手居の小四丁斗りにあるてこれより西八則佐屋迄之又これより
佐屋街道標石北と名古屋と南と奥田と見ぬあを三所の堺とすべし

尾張名所図會巻之四終

熱田之部
深川忠豊全撰